社會法學ニ付テ

中村彌三次

此稿ハ曾テ筆者ガ、遊佐教授ノ指導ノ下ニ物シタルヲ、後チ再三數次ニ亙ル其叱正ヲ受ケテ、改作ヲ重ネタモノデアル。實證的ナ法律學ニ於テハ、徒ラニ抽象的ナ原理ノ羅列ニ沒頭スベキデナク、眞ノ科學的ナ研究ガ必要デアルトハ、筆者年來ノ朧ゲナ考ヘデアツタ。其レガ遊佐教授ノ科學的指導ニヨツテ、近時漸ク明確ナ形ヲ取リ初メ、不滿足ナガラモ徐々ト實際的ナ研究ニ取リ懸カルコトガデキタノデアル。然シナガラ先生ヨリ受ケシ厚キ指導ノ一小部分ニモ副ヒ得ザリシコトハ、實ニ遺憾中ノ遺憾デアツタ。然シ其ノ遺憾ハ向後先生ノ高教ト、筆者ノヨリ忠實ナル研究ニヨツテ癒スベキハ固ヨリナレド、尙ホ大方諸賢ノ御叱正ニヨツテ減少シ得ルコト、遙カニ大ナルモノアリトノ唯一ノ希望ノ下ニ、コノ貧シイ研究ノ結果ヲ發表シ、廣ク江湖ノ是正ヲ乞ハントスルモノデアル。終リニ臨ンデ遊佐先生ヨリノ篤キ御指導ニ對シテ、相應シキ感謝ノ辭ナキコトヲ告白シナケレバナラヌ。

第一節　社會法學ノ概念

I. **「シユタムラー」ノ說**　十九世紀末葉ヨリ起ツタ「新カント派ノ社會主義化運動」(die Bewegung der Sozialisierenden Kantianer) ヲ代表スル「マーブルヒ」學派ノ曉將タル「シユタムラー」ノ說ニ據レバ、「法律ハ社會ノ形式 (Form der Gesellschaft) トシテ代表的ニ擧示スルコトガ許サレ、之ニ對シテ經濟ガ社會ノ實質 (Soziale Materie) トシテ對立サレル。‥‥‥社會ノ實質ハ社

會的ニ結集サレタル人間ノ欲望滿足ノ爲メニスル協働デアル。社會的規制(法律)ハ無制約的ニ總テノ協働ノ可能性ニ關與スルモノデアツテ、單ニ物質的ナ又ハ「卑シイ」欲望滿足ニ關スルモノノミニ限ルノデハナイ。』

『ソレ故ニ若シ社會經濟ガ人間協同ヲ其ノ全體ノ中ニ包攝シ、且ツ何物モ餘マサヌトスレバ、――カカル總括的ナ實體的ナ思想ニ對シテ、次ニ置イテアル「社會經濟」トイフ語ガ、適合スルヤ否ヤハ疑ハシイ――其ハ「經濟」トイフ上措概念ノ一部トセラルベキモノデハナイ。……然シ社會的協同ニアリテハ共同目的ヲ外的規律ニヨツテ遂行スルノデアル。……之レニ基イテ我々ガ若シ「法律」ト「經濟」トノ關係ヲ配置スルナラバ、ソハ社會生活ノ「形式」(Form)ト「實質」(Stoff)トノ關係ニナル。カノ「社會的」ナル概念ノ使用ニ方リテハ、事實上常ニ兩者ガ結合サレテ我々ニ與ヘラレテキル。……サハ謂ヘ「社會」トイフ合成概念ノ批判的分析ニ於テ茲ニ引用サレタルモノ――結合其レ自體卽チ一方ニ於テハ外的規律ニヨル共同目的ノ確定及ビ他方ニ於テハ結合セラルル者ノ調和的活動――ヲ、社會生活ノ制約的形式ト被制約的實質トニ區別スルコトガ可能デアル。』實ニ彼レニ取リテハ、『全ツタク法律ト經濟トハ空間現象ノ行キ方ニ從ツテ、二ツノ獨立的對象トシテ相對峙セルモノデハ無クテ、同一對象ノ必然的ニ結合サレタル二要素デアル。……社會經濟ト法的規律トノ倚繫ハ、唯ダ「論理的」デアツテ決シテ「時間的」若

シクハ因果的ナモノデハ無イ。……而シテ社會生活ヲ制約スル形式ノ變化ニ或ル影響ヲ及ボスモノハ、特殊ナ「法律」トハ獨立ニ成立セル有名無實ナ有機體トシテノ「經濟」デハナクテ、法律的ニ組織サレテキル社會生活其レ自體デアル[1]。」

1) „Wesen des Rechtes und der Rechtswissenschaft" von Rudolf Stammler, Systematische Rechtswissenschaft, 2. Aufl. Leipzig, 1913, S. 28–31.

II.「ベロルツハイマー」ノ説　然シ斯クノ如キ社會主義化ノ傾向ハ、單ニ新「カント」派ノミノ現象デハナカツタ。新「ヘーゲル」派ニ於テモ、斯ウシタ運動ガ行ハレテキル。我々ハ今其ノ代表的ナ選手ノ「ベロルツハイマー」ニ聞カウ。彼レノ論ズル所ニ據レバ、「唯物史觀ハ謬說トシテ抛棄スベキモノデアル」ガ「總ジテ經濟的變化ハ、其レニ平行シタ法律的變化ヲ招致スル。サハ謂ヘ其ハ前者ノ健全ナル變化卽チ全體ノ力ヲ高ムル場合ノミニ限ル。往々ニシテ非常ニ烈シイ破壞的ナ運動ガ、抑制要素トシテノ法律ニヨツテ阻止サレル。法律、卽チ活潑ナル法律的變化ハ、自ラ經濟關係ニ影響ヲ與ヘル。………「經濟ト法律トノ相關性」(Reziprozität von Wirtschaft und Recht) トイフ極メテ手近ナ明白ナ眞理ガ、甚シク後代ニ到リテ學問ノ中ニ取リ入レラレ、而カモ尙ホ未ダ樣々ニ否認サレントスルガ如キハ、吾人ノ殆ンド解シ難キ所デアル。」

「偖テ今ヤ我々ハ法律ニ關スル經濟法學的態度ヲ以テ、法律的經濟ノ一大新發展ヲ期待スル首途ニ立チ臨ンデキル。大ナル解放戰ガ古代社會ニ根付クニ至ルヤ、カクシテ倫理的精神ハ法

律ニ滲透シ、固定セル純法律ヲ改造シテ道德法律ノ綜合ヲ完成シ、遂ニ其ハ第四階級ノ解放ヲ以テ其ノ局ヲ結ンダ。而シテ今ヤ道德法律ノ綜合ハ、社會ノ同様ニ其ノ各構成員ノ、文化的能力ヲ向上スル新タナ法律的發展ニ對スル基礎ヲ打チ樹テルコトトナッタ。法律經濟的(Juristische-oekonomische)トイフコトハ、法律ト經濟ノ間ニ存スル相關性ノ認識ニヨッテ導キ出サレ、且ツ經濟關係ニ適應スル法律ノ形成ニヨッテ、法律經濟ノ體的統一ヲ導カントスル要求假定ヲ接合スルモノデアル(2)。」

2) „Die Kurturstufen der Rechts—und Wirtschaftsphilosophie“ von Fritz Berolzheimer, München, 1905, S. 30-32.

斯クノ如キ法律哲學ニ於ケル經濟學化的傾向ハ、少ナクトモ在リ來タリノ法律哲學ノ概念遊戲ニ對スル不信ヲ表白スルモノデアリ、マタ哲學其レ自體ノ自壞作用ヲ曝露セルモノデハアルマイカ。同時ニソハ實證科學ノ勝利ヲモ示スコトニナリハシナイダラウカ。

III.「マルクス」ノ説　然ラバ之レニ對シテ社會主義學派就中「マルクス」派ハ、如何ナル見解ヲ持スルデアラウカ。「マルクス」ノ説ク所ニ據レバ「法律モ國家ノ形態ト同様ニ、單ニ其レ自體ノミヲ觀テ理解シ得ルモノデモ無ケレバ、マタ所謂人心ノ一般的發展ニヨッテ理解シ得ルモノデモナク、寧ロソハ「ヘーゲル」ガ十八世紀ノ英國人ヤ佛蘭西人ニ追隨シテ「ブルジョア」社會ノ名ノ下ニ、其ノ總體ヲ概説シテキルヤウナ物質的生活條件ニ其ノ根

柢ヲ置イテキル。[ブルジョア]社會ノ解剖モ經濟學ニ求ム可キデアル。‥‥人間ハ彼等ノ社會的生活ヲ營ムニ當ツテ、彼等ノ意思トハ何等ノ關係モ無キ或ル一定ノ必然的關係、即チ彼等ノ物質的生產力ノ或一定ノ發展段階ニ適應スル生產關係ニ就クモノデアル。』

『之等生產關係ノ總體ガ社會ノ經濟的構層即チ法律的、政治的ノ上部構層ヲ支持シ、マタ一定形態ノ社會的意識ヲシテ順應セシムル眞ノ基礎ヲ形成スル。物質的生活ニ於ケル生產方法ハ、社會的、政治的、及ビ精神的生活ニ於ケル智的過程ヲ決定スル。人間ノ意識ガ彼等ノ存在ヲ決定スルノデハ無クテ、却ツテ彼等ノ社會的存在ガ、彼等ノ意識ヲ決定スルノデアル。社會ノ物質的生產力ガ、或ル程度マデ其ノ發展ヲ遂グルニ至ルヤ、現存ノ生產關係、或ハ此ノ事ヲ單ニ[法律的]ニ言ヒ表ハセバ、其レマデ生產力ガ進行シテ來タ範域タル[所有權關係]ト相柢觸シ、其ノ生產關係ハ生產力ノ發達ヲ助長スルタメノ形式カラ一變シテ、却ツテ其ノ拘束トナルニ到ル。事態茲ニ及ベバ我々ハ最早ヤ社會革命ノ時代ニ突入スルコトガ出來ル。(3)』

3)"Critique of Political Economy" by Karl Marx, Chicago, 1921, Preface p. 11—12.

何レノ說ニヨルトシテモ、我々ノ問題ノ關スル限リデハ、所謂『法律經濟ノ相關性』トイフ事ガ、最早ヤ否定シ難キ力ヲ以テ現代法理論ノ中心問題ヲ占メテキル。トハ謂ヘドモ該相關性ニ

關スル諸家ノ解釋ニ於テハ、各々其ノ立場ヲ異ニシテキル。否ナ更ラニ「マルクス」派ト稱スル人々ノ間ニ於テモ、尚ホ異說紛々タル有樣デアル。我々ハ其ノ最モ著シキ例ヲ、「マルクス」ノ共同事業者タリシ「エンゲルス」ノ所說ニ見出ス。

IV.「エンゲルス」ノ說　「エンゲルス」ノ說ク所ニヨレバ、唯物的見解ニヨレバ歷史ニ於ケル最終ノ決定要因ハ、直接ノ生ノ生產及ビ再生產デアル。然シナガラ之レハ、生產手段、即チ食物、衣服、住居ノ生產及ビ其レニ要スル用具ノ生產デアリ、他ノ方法ハ「人間其レ自體」ノ生產、即チ種ノ繁殖デアル。歷史上ノ或ル特定時代、且ツ或ル特定國土ノ人間ガ、其ノ下ニアッテ生活スル社會組織ハ、此ノ「二樣ノ生產方法」ニヨッテ制約サレル、即チ一方ニ於テハ「勞働ノ發達程度」ニヨリ、他方ニ於テハ「家族ノ發達程度」ニヨッテ條件附ケラレル。勞働ノ發達ガ低ケレバ低イ程、其ノ生產物ノ量ガ、同樣ニマタ社會ノ財富ガ、局限サレテキレバキル程、其レダケ親族ノ連帶ガ社會秩序ヲ支配スルモノトシテ顯著ニ現ハレル。所ガ親族ノ連帶ヲ基底トセル此ノ社會的構造ノ下ニ、勞働ノ生產能率ガ漸次益々發達スルト、其レト共ニ私有財產及ビ交換、富ノ相違、他人ノ勞力ノ利用、且ツ其レニヨッテ階級對立ノ基礎ガ發達ヲ遂ゲル。」

「新社會ノ要素ハ、幾代ノ間ニ亙ッテ古ルイ社會組織ヲ新生ノ事情ニ適應セシメヤウト力ヲ竭シナガラモ、遂ニハ兩者ノ一致ヲ失ッテ、完全ナ變革ヲ招來スル。親族團體ニ基ヅイタ舊社

會ハ新タニ發達シタ社會階級トノ衝突ニ於テ粉碎サレル。カクテ一ノ新社會ガ其レニ取ツテ代ハリ、而シテ國家ヲ形成スル。其ノ構成單位ハ最早ヤ親族團體ニハ非ズシテ地域團體ナノデアル。其處ニハ親族的秩序ガ專ラ財產的秩序ニヨツテ支配サレル社會デアル。從來ノ「成文史」ノ內容ヲナス其ノ社會對立ト階級鬪爭トガ、其レニ於テ自由ニ開展サレル社會ナノデアル。(4)」

4) „Der Ursprung der Familie, des Privateigenthums und des Staates." von Friedrich Engels, 21. Aufl. Stuttgart, 1922, Vorworte VIII.
之レニヨツテ知ラル如ク歷史的進化ノ動因、換言スレバ法律的變化ト經濟的變化トノ相關作用ニ就テ、「マルクス」ト「エンゲルス」ノ間ニ甚シキ見解ノ相違アルヲ見ル。卽チ前者ハ『物質的生產力』ヲ以テ一元的ニ說ケド、後者ハ『物質的生產』及ビ『人間其レ自體ノ生產』ノ二元的要素ヲ以テ、之ヲ說明セントスルモノデアル。

V. 法律ト社會トノ相關性　以上ノ諸說ニ徵シテモ法律ト社會殊ニ經濟トノ「相關性」ハ、如何ニ學者ノ注意ヲ引イテ居ル點デアルカガ解ル。唯我々ノ法律關係ニハ、「經濟關係以外ノモノ」例ヘバ親族法上ノ血緣制度ノ如キ、人ノ出生死亡ノ如キ自然的現象ニ關スル法律上ノ取扱制度ノ如キ、人ノ生命、身體、自由、名譽等ニ關スル法律的保證制度ノ如キ到底枚擧ニ遑ナキ程、雜多ナル事象モアルカラ、經濟ト法律トハ、決シテ物的ニ全然一體ヲナスモノニ非ズ、其等ハ各々別箇ノ存在デアル。斯クテコソ兩者ハ各々別異ナル學的對象トナリ得ルノデアツテ、「シユタムラー」ノ主張セル如ク決シテ概念的ニ區別サレタモノデハ無イ。尙

ホ經濟的變化ハ總ジテ之ニ併行シタ法律的變化ヲ招致スルノデアルガ、或ル場合ニハ之ト反對ノ結果ヲ呈スルコトモアル。

サハ謂ヘ經濟ト法律ノ相關性ハ、決シテ「因果關係」ニ立ツモノニハ非ズシテ、「條件關係」若シクハ「制約」「被制約」ノ關係ヲ以テ其ノ原理トシテキルモノデアル。蓋シ我々ノ「法律關係」ニハ經濟關係ノ結果トシテ生ミ成サルヽニハ非ズシテ、其他ノ原因ニヨツテ發生スルモノ、例ヘバ既述ノ如キ人ノ出生、死亡、性的結合、能力喪失、生命、身體、自由、名譽、言論ノ自由、信書ノ祕密等ノ自然的結果又ハ人ノ社會的結合ノ結果トシテ生ズルモノモアルヲ以テデアル。然シ其等ト經濟トノ關係ニ於テハ、常ニ「制約被制約ノ條件關係」ニ立チ居ルコトヲ看過シテハナラヌ。

サレバ「法律經濟ノ相關性」ノ闡明ハ、從來多ク誤解サレ或ハ見失ハレテ居タ法制機能ト經濟關係トノ兩者ヲ連ヌル無形或ハ有形ノ聯鎖ヲ、可及的詳細ニ科學的ナ方法ヲ以ツテ追及シ、法律科學ノ上ニ於ケル兩者ノ地位ヲ明カニスルコトニ依ツテ招致サレル。斯クテ兎角保守的ニ固定シ易イ「立法作用」ト、之レニ反シ極メテ進取的ナ經濟活動トノ間ニ、絕エズ生起スル矛盾ヲ避ケ、一般社會生活ノ發展ト法律生活ノ進化トノ步調ヲ齊一ニ持チ來タスコトガ出來ハスマイカ。

VI. 例證　然シナガラ果シテサウシタ欲求ガ實現セラレ得ベキモノデアラウカ。我々ハ其ノ可能性ヲ說ク爲メニ、我々ヨリモ遙カニ低イ文化段階ニアル「アメリカインド」人ノ間ニ於ケル

事證ヲ揭ゲヤウ。

例ヘバ「ドッヂ」ガ其ノ著「極西ニ於ケル現印度人ニ就テ」ノ中デ、彼等ノ生活秩序ニ關シ報ズル所ニヨレバ、「每年秋ニナルト、冬籠リノ糧食ヲ得ル爲メニ大規模ノ狩獵ガ行ハレル。而シテ彼等ガ弓矢ヲノミ使用セシ頃ニハ、各獵手ハ自己ノ矢ヲ記憶シテ居ル爲ニ、其ノ獵物ハ總テ彼ノ「私有財產」トサレタ。但シ其ノ中ノ或ル一部分ハ、寡婦ヤ或ハ養ツテ吳レル獵手ヲ有タヌ家族ノタメニ、適當ナ方法ニヨツテ「課稅」サレタ。同一ノ野牛ニ多數ノ矢ノ中ツタ場合ニハ、矢ノ位置ニヨツテ獲物ノ「所有權」ハ決定サレタ。若シ各矢共ニ致命傷ヲ與ヘテヰタ場合ニハ、野牛ハ等分サレルカ若シクハ或ル寡婦ニ贈與サレルコトモ稀デハ無カツタ。總テ之等ノ問題ハ、「獵長ガ裁決」シタ。彼ノ裁決ニ不服ナモノハ、更ニ狩獵軍ノ「共同裁決ニ上訴スル」コトガ出來タ。然ルニ銃器使用ガ普及シテ以來、射殺サレタ野牛ノ識別ガ不可能トナルヤ、彼等ハ「共產主義的ナ見解」ヲ持ツニ至リ、而シテ彼等ノ發明ニ係ハル平等ナ比較分配法ニ依ツテ、總テノ獸肉獸皮ヲ分配スルコトトナツタ[5]。」

5) „Karl Marx's Oekonomische Lehren" von Karl Kautsky, 20 Aufl. Stuttgart, 1921, S. 6–8.

彼等ニハ高遠ナル法理學的知識モナケレバ、卓越セル立法機關モ固ヨリ存在セヌ。尙ホ我々ノ「シュタムラー」ヤ「ベロルツハイマー」ニ見ルガ如キ、經濟ト法律トニ關スル煩鎖ナル哲學的論

爭モ無イ。然カモ彼等ノ經濟ト法律トノ相關作用ハ、何等ノ獨斷的敎義ニモ煩サルルコトナク、極メテ圓滑ニ働イテキル。而シテ我々ハ今ヤ法律的變化ニ及ボス經濟的變化ノ如何ナルモノナリヤ、マタ所謂「經濟ト法律ノ相關性」ノ如何ナル性質ノモノナリヤヲ、生キタ事實ニヨツテ知リ得タ。之レヲ要スルニ我々ノ「法律的ニ組織サレタル社會生活其レ自體」ハ謂フニ及バズ、其レヲ規制セル「法律其レ自身」サヘモ「經濟的變化」ニヨツテ、制約サルヽモノデアル。

尤モ上ノ例ニテハ或ハ我々ノ現實生活トノ懸隔、餘リニ甚ダシク一般ノ承認ヲ得難イカモ知レヌ。然ラバ我々ハ現行法制ニ關連セル範圍ニ其ノ例證ヲ求メヨウ。筆者ハ遊佐敎授ノ著「信託法提要」ノ助ヲ藉リテ、信託ノ發達ト之レニ對スル信託法制ノ發達トガ、如何ナル關係ニ於テ行ハレシヤニ就キ數多ノ興味アル實例ヲ擧ゲルコトガデキル。然シ總論ノ性質上、一二ノ顯著ナルモノノミニ止メナケレバナラヌ。其他ニ就イテハ、親シク同書ニ據ラレタイ。

「信託ニ關スル法制上ノ觀念ガ、斯クノ如ク漠然タルニ拘ハラズ、一方吾國ノ經濟生活ハ時運ノ進展ト共ニ、歐米就中米國ノ經濟生活ノ影響ヲ受ケ、彼ノ米國ニ於ケル亂雜ナル法制ノ下ニ發達シタル「信託」又ハ「トラスト」ナル語ハ、我國ニ於テ近年都鄙ヲ通ジテ流行語トナリ、信託會社ト稱スルモノ各地ニ亂立セラレ、信用貸金、無盡講類似業、土地家屋賣買ノ周旋業等ヲ

營ミ、或ハ銀行法違背ノ業務ヲ營ム者モ少ナカラズ。金融政策上看過スベカラザルモノアルニ到レリ。然ルニ我國ニハ信託ノ本質ヲ決定スベキ標準規定ナキガ故、之ニ關スル學者ノ見解及判例共ニ一定スル所ナク、信託行爲ハ民法九四條ノ虛僞ノ意思表示ヲ內容トスル法律行爲トシテ、或ハ其他ノ理由ニヨリ屢其效力ヲ否認セラレ、斯クノ如クシテ信託行爲ノ有效無效ヲ爭フニ到リ、爲メニ實際取引ニ於テハ信託ノ名稱ヲ回避シテ、賣買其他ノ法律關係ヲ應用シテ不備ナル法制ノ下ニ取引セラルルコトハ、吾人ノ日常見聞スル所ナリ。此ノ間ニ於テ尙ホ信託ニ對スル時運ノ要請ハ日ニ其度ヲ高メ、一方法學者モ外國ニ於ケル信託法理ト經濟關係トヲ了解スルニ到リ、漸クニシテ信託行爲ノ適法ナルコトヲ認ムル(虛僞ノ意思表示ト解シタル誤解ヲ解ク)ニ到リ、今日ハ信託行爲ノ效力ヲ否ムモノハ稀有ナルニ到レリ[6]。』

6) 遊佐敎授著信託法提要 125—127.

VII. 評論　是ニ於テ我々ハ前掲印度人ノ例ト此例トノ間ニ、一點ノ共通ト、二點ノ相違トヲ見出スノデアル。一點ノ共通トハ、彼此共ニ經濟的變化ハ法律的變化ニ『先行』シ、且ツ後者ハ前者ノタメニ常ニ其ノ『特相』ヲ決定サルルトイフ事實デアル。而シテ二點ノ相違トハ、アメリカ印度人達ガ些カノ法理論ヲ弄ブコトナクシテ、經濟法律ノ適應ヲ何等ノ苦モ無ク行ヘルニ反シ、我々ニアリテハ阻止シ得ベカラザル時勢ノ進運ニマデモ頑抗シ、徒ラナ有效無效論ヲ弄ビツヽ、而カモ實際生活ハ學者ノ

深遠ナル議論ニ關係ナク種々ノ手段ヲ通ジテ進化シ行キ、爲メニ法律ノミ固定シテ其ノ威信ヲ失墜シ、最後ニ到リ『漸クニシテ適法ナルコトヲ認ムル』ガ如キ失態ヲ演ズルハ其ノ一デアル。マタ彼レニアリテハ、經濟的變化ニ對スル法律變更ヲ時ヲ移サズ行フ結果、法律生活ニ飽クマデ『純正』ト『正義』トヲ保持スルニ反シ、我ニアリテハ兩者ノ關係ヲ『故意』ニ割キ、其ノ結果トシテ『信託ノ名稱ヲ特ニ回避』スルガ如キ虛僞ノ法律生活ヲ織リナスハ其ノ二デアル。『法律經濟ノ相關性トイフ極メテ明白ナ眞理』ハ、カウシタ實際生活ノ裡ニノミ求メ得ラレルノデアル。

然シナガラ以上ノ如キハ輸入法國タル我ガ日本ニ於ケル例外的現象ナラムトノ疑念ヲ挾ムベキ餘地モアラウ。然ラバ信託行爲ノ創始國タリシ古代羅馬ニ就イテ、遊佐教授ノ所說ヲ聞カウ。

『古代羅馬法ニ於テハ、遺言ヲ以テ自己ノ財產ヲ自由ニ處分スルコトハ制限セラレシヲ以テ、共和政治ノ時代ニ到リ此制限ヲ脫シ、自由遺言ノ目的ヲ達スベク種々ナル法律上ノ畫策ヲ試ミラレタリ。例バ遺贈受領ノ有資格者ニ先ヅ遺贈シ、該有資格者ヨリ更ラニ無資格者ニ讓與セシメテ、結局ノ目的ヲ達セントスルナリ。斯クノ如クシテ、法制ノ直接支配ヲ迂回シテ、實際上ノ目的ヲ遂行スル取引ヲ fideicommissa ト稱シタリ。……爾後『オーガスタス』帝ノ時代ニ到リ fideicommissa ハ、法律上適正ナル取引トシテ是認セラレタリ(7)。』

7) 前掲同書 129.

最早ヤ立證ノ責(總論デ許サルル範圍ノ)ハ充分果タサレタ事ト思フ。

VIII. 人類基本慾　總テ人間ハ何時如何ナル所ニ於テモ、其ノ生存ヲ保チツヽアル限リ、自己ノ生命ヲ保存セントスル意欲ヲ有スルモノデアル。カクテ『自己保存』ト『自己滿足ノ本能』トハ、人間ノ自然的意欲ノ表現デアリ、且ツ此ノ意欲コソ人類文化ノ發達ヲ促ス根本的動因デアル。而シテ其ノ最モ强烈ニ、而カモ第一次的ニ表現サルルモノハ、『食慾』又ハ『飢』(Eszlust oder Hunger)デアル。「リッペルト」或ハ「オッペンハイマー」等ノ主張スル所ニ據レバ、『人間ノ生活ハ飢ト性慾(Hunger und Liebe)トニ生マル。』ト雖モ人間生活ノ第一步ハ疑モ無ク『食慾』ニ出發スルモノデアッテ、コハ人間ノ自然的本能的第一需要ガ、食慾ニ關スルモノナルコトニ依ッテ知レル。蓋シカノ性慾ナルモノハ嬰兒幼者及ビ老者ニ於テハ、之レガ發動ヲ見ルコト難タク、マタ青春ノ血ニ燃ユル壯者ト雖モ、食足ラズシテ飢ユルノ時、何ノ性慾カ起コシ得ン。

斯カル意味ニ於テ『食慾』ハ、性慾ニ先立ツコト、優越スルコト、永續スルコトニ於テ、性慾トノ間到底同日ニ談ズ可カラザルモノアルヲ知ルデアラウ。カクテ筆者ハ食慾ナルモノガ、『唯一ノ生命設備』(die einzige Lebensfürsorge)ニシテ、人類活動ノ原動力ナルコトヲ主張セントスルモノデアル。「マルクス」ガ歷史的進化ノ一元的動因トシテ、『物質的生產力』(Materielle Produktiv-

kraft) ヲ擧ゲテ居ルノハ、實ニ卓見ト謂フベキデアル。

故ニ若シ人生ニ取リテ、永久普遍ナル眞理アリトセバ、ソハ『生キトシ生ケル人類ハ總テ食慾ヲ有セザルモノナシ』トイフ通則デアラウ。是ヲ以テ我々ハ總テノ人類活動ノ第一次的要因ヲ『食慾』ニ求メ、而シテ其レ以外ノ後次的要因ヲ『性慾』及ビ其他ノ『文化慾』ニ歸セントスル企圖ノ妥當ナルヲ知リ、殊ニ我々ノ社會法學ニ於ケル學的考究ノ究局的對象ヲ、斯カル人間意慾ノ根本ニ求ムル理由ノ正當ナルコトヲ信ズルノデアル。カノ「エンゲルス」ガ、食慾ト性慾トノ二元的動因ヲ以テ歷史的解釋ニ臨ミタルハ、「マルクス」學派ノ根本原理ニ反スルハ固ヨリ、其ハ決シテ正當ナ根據ヲ有ツテ居ナカツタ。

IX. 法制ノ史的發展　筆者ノ貧シイ研究ノ結果ニヨレバ、『法制ノ史的開展』ハ、人類ノ『生活資料獲得方法ノ發展』ニ伴ヒ、而シテ人ノ生活資料獲得ノ方法ハ、或時代時代ニ於ケル『生產用具』ニヨツテ規制サレルモノデアル。カクテ新生產用具ノ發生ハ第一次ニ社會ノ基構タル經濟的關係ヲ變化セシメ、次イデ其ノ上部構層ノ規制原理タル『法制』ニ變革ヲ招致スル。故ニ我々ノ法律學的研究方法ニ於テモ、斯カル人類ノ經濟的活動ノ部門ヲ以テ、其ノ主要ナル研究對象トセザル可カラザルコト、其ノ結果トシテ法制史ノ『時代別』モ『場所別』モ『法型別』モ、玆ニ其標準ヲ求ムベキデアラウ。然シ多クノ唯物論者ノ主張スルガ如ク經濟關係ガ、總テ社會ノ諸現象ヲ『生ミ成ス』トイフ結論ニ

ハ到達シ得ナカツタ。

「食慾」ノ存スル所必ズ之レガ充足ノ活動生ジ、更ラニ「性慾」其ノ他ノ「文化慾」ノ滿足ニ對スル活動モ生ズルニ到ル。カクテ之等諸活動ハ合シテ、茲ニ人類社會ノ或ル一定ノ形相ヲ織リ成ス事トナル。然シ不斷ノ活動ハ、絕エ間無キ變化ヲモ他面ニ伴フモノデアル。サウシタ新變種ノ活動ガ合體シテ獨立ノ存在意義ヲ得ナバ、マタ其處ニ新タナル生活條件ヲ招來スル。茲ニ到ツテ新舊兩種ノ矛盾衝突ヲ惹起シ、其レニ伴フ諸運動ヲ含ミシ特異ナル世相ヲ呈示スル。カクシテ兩者ノ存在主張ニ對スル鬪爭ニ於テ、克ク最終ノ勝ヲ制シタルモノガ、新時代トイフ獨自ノ文化的形相ヲ決定スル。

一定ノ「生活狀態」ハ之レニ對應スル一定ノ「生活規律」ヲ齎ラスモノデアル。從ツテ生活狀態ニ於ケル上述ノ如キ變種ハ、マタ其レニ對應スル新生活規律ヲ誘發スル。カクテ新舊兩樣ノ生活狀態ノ撞著ニ伴レテ、「新舊兩規律」ノ矛盾ヲ生起シ、茲ニ過渡時代特有ノ法制ニ於ケル混亂狀態ヲ活現スル。而シテ後チ新生活狀態ガ覇者タルノ日、其レニ順應シタ生活規律ノ總體ガ我々ノ呼ンデ以テ「新制度」トナス法律制度ヲ形成スル。斯カル法制ノ時間的推移ガ、所謂「法制史」ノ全過程ヲ組成スルモノデアル。故ニ法制ノ史的變化ハ、畢竟スルニ我々ノ「生活歷史」ノ一部面(法律生活)ノ反譯デアリ、且ツ其ノ部分的結果デアル。而カモ其ノ生活歷史ニ於ケル根本的動因ハ、前節述ベシ所ニヨツテ明

カナル如ク、生活資料獲得方法ノ變化デアル。サレバ法制ノ史的變化ニ關スル「實質的」研究ハ、必然的ニ我々ヲ「生活資料獲得方法」ノ歷史的研究ニ導クノデアル。

我々ハ今ヤ經濟的變化ト法律的變化、換言スレバ「經濟原則ノ變化」ト「法理ノ變遷」トノ歷史的概觀ニ入ルニ先立ツテ、豫メ斷リ置ク可キコトガアル。即チ——

社會法學ノ歷史的研究ニ於テハ、「生キタ生活事實」ヲ以テ其ノ學的考察ノ主位ニ置キ、成文的形式的文獻ハ其ノ副位ニ從ハシメルノデアル。因ツテ我々ノ法制ノ歷史的區劃ノ標準モ、或ル一定ノ「生活條件」(conditions of life) ニ置カナケレバナラヌ。我々ノ研究方法ニ取リテハ「時」(time) ヨリモ、「條件」(condition) ガヨリ多クノ重要性ヲ有ツ。

サレバ以下述ブル所ノ法制史的諸段階ハ時ノ今昔ヲ問ハズ、其文化ノ發達ガ幼稚ナレバ現代ノ法制デモ「古ルシ」ト斷ジ、其發達程度ノ高キモノナレバ古代ノ法制デモ是レヲ「新ラシ」ト決ス可キデアル。故ニ例ヘバ現代ノ「オーストラリア」人、「ポリネシア」人、北米印度人及ビ「アフリカ」土人ノ如キハ、極メテ幼稚ナル文化段階ニ屬スルモノナルヲ以テ其法制ノ段階ハ、他ノ民族ノ古代法制ト同一段階ニ置カレルコトニナル、反之、支那ノ如ク古代ニ於テハ、世界ニ於ケル古代法律文化ノ三高峰ヲ築キシ國民モ、今ハ却ツテ法制ノ發達幼稚ナルガ如キハ、正ニ「時」ノ關係ノ逆轉ヲ來タセルモノデアル。要スルニ法制史的段階別ノ標準ハ、

『生活條件』ニ求ルノ他ハナイ。然シ之ヲ一般ニ言ヘバ何レノ民族モ大體ニ於テ、以下述ブル諸段階ヲ經過スルノガ常デアツタ。

X. 原始時代ノ物質的生活　原始人ハ彼等ノ原生地タル熱帶及ビ亞熱帶地方ニ於ケル野生ノ果實塊根蛆蟲バツタ蟻ノ如キ、彼等ノ眼ニ觸レ、手ニ獲ラレ、足ニ障ハル限リノ天惠物ニ倚食シテキタ。彼等ニハ何等ノ用具アル無ク、其ノ食料獲得手段タルヤ下等動物ノ其レト少シモ異ナルコト無ク、兩足ト兩手トヲ輕妙ニ立チ働カセテ物ヲ攫ミ木ニ攀ヂ、男モ女モ共ニ手ニテ捕ヘ爪モテ土ヲ掘リ、斯クシテ得タル下等動物、昆蟲、塊根、果實等ヲバ、少シノ火モ何等ノ調理モ加フルコトナシニ生食スル(1)。斯カル熱帶亞熱帶ノ天惠物生活ハ、彼等原始人ヲシテ其ノ原產地ヨリ獨立シテ、他ノ地帶ニ傳播シ行クノ自由ヲ得セシメナカツタ。

以上ノ如キ天惠物生活ニ於テハ、動物ニ於ケル如ク差シタル社會的結束ハ無カツタ。唯ダ猛獸ノ襲擊ニ對シテ小數ノ集團ヲ必要トシタニ過ギナカツタ。故ニ彼等ハ時アツテ大群ヲ成スカト思ヘバ、程無ク四散シテマタ前日ノ仲間ヲ思ヒ出ス事サヘシナイノデアル。蓋シ斯クノ如キ集團生活ガ彼等ノ個人的ナ探食生活ニ大シタ生活利益ヲ齎ラサヌカラデアル(2)。

1.2) „Die Entstehung der Volkswirtschaft" von Karl Bücher, 9. Aufl., Tübingen 1913. S. 26.

天惠物ハ財物ナル觀念トハ、相容レザルモノデアツテ、全ツタクノ自由財ナレバ、天惠物生活者タル彼等ノ間ニハ、一定ノ財

物ニ對スル個人的若シクハ團體的獨占トイフ現象モナク、更ラニマタ生産用具ヲ有タヌ彼等ニ於テハ、總テノ物ニ關シテ自他ノ區別アル無ク、且ツ個人的支配ヲ及ボスベキ客體モナケレバ、從ツテ「財產所有」ニ關スル社會的規律モ存在シナカツタ。

XI. 原始人ノ性的生活　原始人ハ性的生活ニ於テモ「無規律」デアリ、從ツテ其處ニ一定ノ形態ヲ備ヘタ家族生活ノ存在シ得ベキ筈モ無カツタ。

故ニ彼等ノ性的關係ハ、「エンゲルス」ノ所謂「無規律性交」[3](regellose Geschlechtsverkehr) デアル。無規律性交トハ如何ナルモノデアルカトイフニ、其ハ現ニ若シクハ古代ニ定メラレタ禁制ガ少シモ行ハレナカツタ事ヲ意味スルノデアル。而シテ彼等ノ間ニ於テハ、自他ノ意識殆ンド無ク、從ツテ後世ニ見ルガ如キ「嫉妬」ナル感情ハ、未ダ發生シテ居ナカツタ。斯クテコソ以後續々ト種々ニ形ヲ變ヘツツ現ハレ來タル「集團婚」(Gruppenehe) ガ、確固タル存在ノ基礎ヲ保チ得タノデアツタ。故ニ「何カ確カナ事ガアリトスレバ其ハ嫉妬ナルモノガ比較的後代ニ發生シタ感情デアル」ト謂フコトデアル。[4]

3.4) „Der Ursprung der Familie, des Privateigenthums und des Staates" von Friedrich Engels 21 Aufl, Stuttgart, 1922, S. 17.

マタ「無規律性交ト言フコトハ、「血族相姦」(Blutschande) トモナル。原始的ニハ單ニ兄弟姉妹ガ、夫タリ妻タリシノミナラズ、親子間ノ性交マデモ行ハレ、尙「現ニ」多クノ種族ニヨツテ許容

サレテキル。例ヘバ「ベーリング」海峡ノ「カヴィアト」人、「アラスカ」ノ「カディアック」人、英領北米内部ノ「ティンネー」人、「チッペワー・インド」人、「チリー」ノ「クークー」人、「カライブ」人、印度支那ノ「カーレン」人等ニ於テハ、サウシタ親子間ノ相姦サヘモ行ハレテ居ル事ガ、「バンクロフト」ヤ「ルツルノー」ニヨツテ明カニサレテキル。[5]」

5) エンゲルス前掲同書16—18頁

古代「ギリシア」人ヤ古代「ローマ」人ノ眼ニ觸レタ範圍ニ於テモ、可成リノ例ガ殘シ傳ヘラレテキル。卽チ北「アフリカ」ノ「アウゼアン」人ニ就テハ、「ヘロドートス」ニヨツテ、「エチオピア」ノガラマテ」人ニ就テハ「プリニー」ニヨツテ、「アイルランド」ノ「ケルト」人及ビ「アラビア」人ニ就テハ「ストラボ」ニヨツテ、其等ノモノガ何レモ、動物ノ雜群ニ於ケル如ク、無規律ナル性的生活ヲナシツヽアリシコトガ、確實ニ告ゲラレテキル。[6]

6) "Ancient Society" by Lewis H. Morgan, Chicago, p. 508.

XII. 我古代ノ性的生活　斯カル無規律性交ニ關シテ、我々ノ祖先ハ何ウデアツタラウカ？

祝詞大祓ノ中ニ現ハレタル所謂『國津罪』ノ中、『己ガ母ヲ犯セル罪、己ガ子ヲ犯セル罪』(實母子間ノ相婚禁止、而シテ『父』ニ言及セザルハ、未ダ母系主義時代ニ於ケル禁制ナルコトヲ示ス。蓋シ集團婚ニ於テハ、父方ノ識別不可能ナルヲ以テデアル)、『母ト子ト犯セル罪、子ト母ト犯セル罪』(他人ノ母ヲ姦シ、マタソレガ子ヲ姦スナリ[7])、『畜犯セル罪』トアルガ如キ、尙ホマタ古事

記ノ仲哀記ニ、〖上通下通婚、馬婚、牛婚、鷄婚、犬婚ノ罪ノ類ヲ種々求ギテ、國ノ大祓シテ云々〗トアルガ如キハ、我々ノ祖先達ガ曾テ親子兄弟姉妹間ノ血族相姦ヲ、無規律ニ行ヒシコトアルモ、後ニ到リテ斯カル規律ノ定メラルヽニ及ビ、遂ニ其等ハ〖國津罪〗トイフ犯罪ヲ構成スルニ到ツタモノデアリ、マタサウシタ因襲ノ久シカリシタメ、後世ニ及ンデモ犯ス者多ク、其ノ結果大祓ノ中ニ國津罪トシテ、後々マデ掲ゲ置クノ必要ガアツタモノデアラウ。

7) 加茂眞淵翁、祝詞考、地、24頁

尚ホ傳說時代ニ入リテモ〖庶母〗ト〖子〗トノ相婚ガ、合法婚トシテ公認セラレアルガ如キ、例ヘバ開化天皇(九代、504—563)ガ、庶母伊賀迦色許賣命ト娶ヒシガ如キニ想ヒ到ラバ、我々ノ祖先ノ性的關係ガ、如何ニ一般ノ發達ト懸隔シ居タリシカヲ知リ得ルト同時ニ、其ハ我々ノ祖先達ガ餘リ遠カラザル過去ニ於テ、母子間ノ相婚ヲ平然トシテ行ヒ居タリシ狀態ヲ、推測スルヨスガトモナルデアラウ。

我ガ國ニ於ケル無規律性交ノ行ハレシ時代ニ關スル考察ハ、後章ニ於テ述ベヤウ。茲ニハ唯ダ遠ホカラザル過去ニ於テ我々ノ祖先達ガ、〖集團的ニ〗無規律ナ性的生活ヲナセシ事ヲ述ブルニ止メヤウ。〖集團的ニ〗ト言ヒシハ、既ニ大祓ニモ母ト子トノ相姦ノミヲ規律セルハ、父方ノ系統不明ナルヲ示シ、父系ノ不明ハ集團婚ノ必然的結果ナルヲ以テデアル。

XII. 原始人ノ家族關係　原始時代ニ於ケル家族關係ニ於テモ、彼等ノ「薄弱ナ團體ハ、一度ビ食料缺乏センカ、忽チニシテ四散遊離シ去ルモノデアルカラ、各個ノ構成分子ガ該團體ヨリ離脫スルコトアルハ、蓋シ否定シ難キ事實デアラウ。然シサウシタ裡ニモ比較的ニ「永續」スルノハ、「母子間ノ共同」關係デアッテ、母ハ其ノ漂泊ニ際シテ、其ノ幼兒ヲ連レ行クヲ要スルガ故ニ、何等カノ方法ニヨリ、兒ヲ背ニ縛リ負ヒテ、サ迷ヒノ旅ヲ續ケルノガ普通デアル。斯クノ如キハ有ラユル野蠻人ノ間ニモ、普ネク行ハレテキル風習デアッテ、旣ニ農業時代ニ移レル者ノ間ニ於テサヘ、尙ホ其ノ遺風ヲ見受ケル。幼兒ハ斯クシテ永イ間其ノ母ノ乳ト母ノ口トニヨッテ養育サレル。ガ然シ漸ヤク獨立シテ食料ノ探求ヲ爲シ得ルマデニナレバ、最早ヤ八歳乃至十歳位ニシテ其ノ母ノ共同關係カラ離脫スルモノモ尠ク無イ(8)。」

8) ビュッヘル前掲同書 11頁。

故ニ我々ハ此ノ時代ノ家族關係ニ於テモ、尙ホ一定ノ秩序ヲ見出スコトハ困難デアル。況ンヤ此ノ時代ニ於テハ、食料不食ノ場合ハ何人ノ見境無ク屠殺シテ食フ所謂「食人俗」(Kannibalismus) 行ハレ、或ハ「嬰兒屠殺(9)」(Kindestötung) ノ頻繁ニ行ハレシニ於テヲヤ。家族存立ノ不可能ナルコト自明ノ理デアル。

9) ビュッヘル前掲同書、15頁。

XIV. 法制未生時代　以上之レヲ要スルニ原始人ノナシ居タリシ自然的ナ「天惠物生活」ハ、其レニ對應スル文字通リノ

自然的ナ無規律ナ生活關係ヲ規制シタ(X—XIII)。彼等ト動物トノ間ニハ次項ニ述ブル點以外ニハ何等ノ差異モ無カツタ。彼等ガ之レヨリ以上ノ段階ニ進出センガタメニハ、彼等ノ經濟生活ニ於ケル今一段ノ轉化ガ必要デアツタ。是ヲ以テ筆者ハ此ノ時代ヲ『法制未生時代』ト名ヅケタノデアル。

XV. 舊石器時代 法制ノ萠芽時代ハ、大體ニ於テ人種學上ノ所謂『石器時代』(Stone Age) ニ對應スル。然シ嚴格ニ謂ヘバ火ノ應用カラ『舊石器時代』(Palaeolithic Age) ヲ通ジテ、『新石器時代』(Neolithic Age) ニ終ル長期間ニ亙タルノデアル。

前項ニモ述ベシガ如ク、原始人ノ生活ト動物ノ生活トノ間ニ於ケル差異ハ、如何ナル方面ヨリ觀察スルトシテモ、之レヲ見出ス事不可能デアツタ。ガ然シ原始人ニハ其ノ將ニ成リ進マントスル將來ヲ豫示セル輝カシイ希望ガアツタ。卽チ彼等ノ激シイ『熱情』ト、肉體的ニ自由ナ操縱ヲナシ得ル『兩手』ト、向上可能性ヲ有ツタ『智性』トノ三點ニ、人類進化ノ總テノ運命ガ托サレ、且ツ其ノ開拓ノ希望ガ懸ツテヰタ。而カモ其等ノ諸能力ハ總テ彼等原始人ノ生活資料獲得ノタメニ用ヒラレテヰタ。

時ノ長イ經過ト共ニ積マレタ經驗ハ、彼等ノ熱情的ナ發明的追求ニヨリ、其ノ向上的ナ進歩的ナ智性ヲ通ジ、其ノ自由ナ兩手ノ運動ヲ介シテ、玆ニ『火ノ應用』トナツテ現ハレタ。『火力』ノ使用ハ彼等ヲシテ帶鱗性及ビ被殼性ノ魚類ノ煮食ヲ可能ナラシメ、カクシテ彼等ハ生物界最初ノ『火食生活』ト、人間最初ノ『人

爲食物」ニヨル生活トヲ打チ樹テタ。

斯カル生活方法ノ變革ハ、彼等ヲシテ必然的ニ、「原始時代」(Primitive Time)カラ、「野蠻期」(Period of Savagery)ヘノ時代轉化ヲナサシメタ。「モルガン」ヤ「エンゲルス」ガ、「有節音言語」(artikulirte Sprache[1], articulate language[2])ノ發成ヲ以テ野蠻期ノ當初ニ置キ、之レニ劃時代的ノ意義ヲ附セルハ稍ヤ失當ノ感無キヲ得ナイ、蓋シ言語ハ猿ノ如キ動物ニ就テスラ尚ホ數十種ノモノガ使用セラレテ居ルト知ラレ、從ツテ言語ノ使用ハ、人類ノ生活ト動物ノ生活トヲ區別スル標準トシテ意義少ナキコト、及ビ有節音言語ハ彼等ノ原生地ニ於ケル固定的ナ天惠物生活ヲ、其レヨリモヨリ以上ノ段階ヘ推進スルニハ餘リニ力弱ク、其ハ「火力ノ應用」ニヨツテ初メテ招來サレタモノデアルカラ。

1) 前揭エンゲルス著書 2頁。2) 前揭モルガン著書 20頁。

魚類ハ其ノ分布狀態ニ於テ普遍的デアリ、其ノ供給高ニ於テ無限デアリ、其ノ收獲時ニ於テハ四季略ボ共通デアル。斯カル條件ヲ具備セル生活資料ハ、彼等野蠻人ヲシテ「氣候」ト「土地」トヨリ獨立ヲ得セシムルニ至ツタ。而カモ之等魚類ハ「火ノ應用」ニヨツテ、初メテ一般的ニ人間ノ生活資料トナサレ得タノデアツタ。

カクテ野蠻人達ハ彼等ノ原生地ノ拘束ヨリ獨立シテ、所謂水草ヲ追フテノ漂泊生活ニ入リ、魚類ヲ求メテ海ヤ湖沼ノ岸ヲ傳ヒ、大河小河ノ岸邊ニ沿ヒツヽ、漸次「新タナル土地」ヘト辿リ

着イタノデアル。

我々ハ今マ尚ホ斯カル漂泊生活ニアル野蠻人種ニ相面シテキル。例ヘバ「オーストラリア」土人、「ロッキイ」山低地ノ民族ノ如キハ其ノ一例デアル。マタ南米ノ最南端ニ住ム「フエゴー」人ハ主トシテ貝類ヲ食シツツ、物凄イ荒漠タル海岸ニ沿フテ漂泊ノ生活ヲ續ケル。其レ故ニ永イ歳月ヲ經ルニ從ツテ、彼等ノ遺棄シタ貝殼ハ、魚ノ骨ヤ其ノ他ノ廢物ト共ニ堆積シテ、滿潮線上一連ニ一大防波堤ヲ築クニ到ル。斯クノ如キ貝ノ堆若シクハ「貝塚」ハ、世界中ノ總テノ海岸ノ到ル所デ見出サレ、且ツ我國ニ於テモ所々デ發見サレテキル。例ヘバ備中津雲ノ貝塚ノ如キ、武藏野ノ奥ノ入間郡下ニ於ケル貝塚ノ如キハ其ノ數例デアル。其ハ斯クノ如キ野蠻部族ノ群居ヲ物語ルモノデアル。又タ例ヘバ「デンマーク」ノ海岸ニ於テ考古學者達ガ、上記「フエゴー」ノ「チエルラ」(Tierra del Fuego) ノソレト略ボ同一ノ生活ヲ營ンデキタ石器時代ニ於ケル歐羅巴人ノ遺跡ヲ語ル貝塚ヲ見出シタ(3)。

3) "Anthoropology" by Edward B. Tylor, London 1913, p. 207.

新タナ土地ニ着イタトイフ事ハ、彼等ニ新タナ生活條件ト、新タナ經驗トヲ與ヘタ。其レガ彼等ノ長イ漂泊生活ニ於テ得タ經驗ト結ビ付キ、彼等ノ發明力ヲ甚ダシク刺戟シタ。燧石マタハ其他ノ石ヲ以テ作ラレタル所謂「舊石器」(Palaeolithic implements) ハ、卽チ其ノ結果ニ外ナラカツタ。カカル舊石器ノ發明ガ彼ノ人種學上ノ所謂「舊石器時代」(Palaeolithic Age) ヲ齎ラシタ。人類

ハ是ニ於テ赤手空拳ノ無器時代カラ、初メテ有器時代ニ突入シ、文化獲得ノ鬪爭ニ於ケル最初ノ輝カシイ勝利ヲ得タノデアル。

此ノ時代ニ於テ人類ハ、其ノ發明ニ懸ル『火食』ト『石器』トノ助ケニヨツテ、殆ンド地球ノ全表面ニ擴ガリ延ビタノデアル。コノ舊石器時代ニ於ケル人類大移動ノ事實ニ就テハ、斯カル野蠻時代ノ石器ガ、總テノ大陸カラ出土スル事ニヨツテ、豐富ナ確證ガ與ヘラレテキル。(4)

4) モルガン前掲著書、21頁。

彼等ノ新タニ刺戟サレタ發明欲ノ現ハレハ、單ニ其レノミニ止マラナカツタ。『摩擦發火法、澱粉性植物ノ調理法、棍棒及投槍ノ發明』(5)及ビ『其等ヲ以テスル狩獵法』、『杭埒ヤ溜池ニヨル堰漁(6)法』『蘆ノ管ニテ呼吸シツヽ水中ニ潛リ、マタハ水草ヲ頭上ニ被ツテ鴨ノ如キ水鳥ヲ捕フル方法』(7)等ノ發見ハ、矢張リ新地帶ヘ辿リ着イテ得タ經驗ノ結果デアツタ。而シテ斯カル狩獵魚撈ノ方面ハ、主トシテ男性ノ營ミシ所デアツタ。

5) エンゲルス前掲著書、5頁。

6) タイラー前掲著書、212—213頁。

7) 同上、208頁。

次ニ農耕方面ニ就イテ見ンカ、ソハ主トシテ女性ノ關與セシモノナルコトガ、現存野蠻人ノ經濟生活ヲ比較研究スル事ニヨツテ知レル。此ノ點ニ就イテ『シュタイネン』ノ語ヲ籍リテ謂ヘバ、『男性ガ狩獵(又ハ漁撈)ヲ營ミツヽアリシ間ニ、女性ハ農耕法ヲ

發見シタ[8]』ノデアッタ。其ノ單ナル一例ヲ擧ゲンカ、『最低ノ野蠻時代ニ停マッテキル「ボロロ」人ノ間デハ、女性ハ一本ノ棒鍬(尖ッタ棒)ヲ携ヘテ森ニ行キ、塊根ヤ球莖ヲ探シ、木ニ攀ジ登ッテハ椰子ノ實ヲ取リ、ソシテ重荷ニ苦シミツヽ其レヲ「家」ニ齎ラシテ歸ル。サウシタ時ニモ男性ハ獸ヲ山野ニ追ヒ廻ッテキル。比較的進歩セル種族デハ、「女性」ハ「農耕」ヤ「マンディオカノ栽培」ヲ營ミ、尖ッタ木片ニテ雜草ヲ取リ、棒鍬ニテ土地ニ穴ヲ突キ明ケテ、其レニ「マンディオカ」ノ種ヲ下ロス。而シテ日日彼等ノ需要品ヲ、重荷ニ積メ込ンダ背負籠デ「家」ニ携ヘ歸ルノデアル[9]。』

8、9) 前掲ビッヘル著書、31――32頁。

以上ハ總ジテ舊石器時代ニ於ケル生産關係ニ關スル縮圖デアル。ガ然シ玆ニ特ニ注意スベキハ、大體ニ於テ此時期ニ於ケル生活資料獲得方法ガ、『個々獨立ニ』行ハレル性質ノモノデアッタトイフ事デアル。蓋シ不完全ナ打製石器ハ、大規模ナ猛獸狩ヤ漁撈又ハ協業的ナ農耕等ヲ不可能ナラシメタカラデアッタ。

XVI. 新石器時代　然ルニ舊石器ハ改善サレテ『新石器』(Neolithic implements) トナッテ現ハレタ。コノ新石器卽チ磨製ノ石器ガ、其レニ對應スル人種學上ノ所謂『新石器時代』(Neolithic Age) ヲ齎ラシタ。而シテコハ法制萠芽時代ノ後半ヲ占メ、法律上ノ異常ナル發達ヲ遂ゲタ點ニ於テ、我々ノ特ニ注意ヲ要スベキ時期デアル。

『弓箭ノ發明[10]』ハ此ノ時代當初ニ於ケル發明中ノ最モ顯著ナ

ルモノデアツタ。磨製ノ『石鑿、石斧、石槌、石鏑、石鋸、石小刀』『石槍ノ穗先』[11][12]等モ此ノ時期ニ於ケル生產用具デアツタ。火ト石斧石鑿、石槌、石鋸等ハ、獨木舟 (Einbaum-Boot) ヲ齎ラシ、マタ家屋建造用ノ材木ヤ板』[13] ヲ齎ラシタ。

10) エンゲルス前揭著書、3頁。

11、12) タイラー前揭著書、27、187、188、191頁。

13) エンゲルス同上同頁。

弓箭ノ出現ハ、彼等野蠻人ニ經常的ナ狩獵勞働ヲ與ヘタ。而シテ之レニヨツテ以前ヨリモ、ヨリ一層獰猛ナ野獸狩ノタメニ『協同的作業』ヲ營マシメ、從ツテ狩獵ニヨル獲物ハ增加シ、彼等ノ常用食物トマデナルニ至ツタノデアル。弓ト矢トヲ知ツテキル民族ヲ比較シテ見レバ、我々ハ既ニ村落ニ於ケル定住生活ノ初マレル事、生活資料ニ對スル或ル程度ノ支配ヲ得テキル事、木製ノ容器ヤ道具、樹皮ノ纖維ヲ材料ニシタ指織ノ織物、樹皮又ハ蘆デ編マレタ籠』[14] 更ラニマタ『樹皮ノ纖維ヲ以テ撚ツタ綱ヤ絲、軟性植物ノ髓質カラ作ツタ織布、衣服ト天幕トニ用フル獸皮ノ鍛鍱』[15] 等ノ生產ヲ見出スノデアル。

14) エンゲルス同上同頁

15) モルガン前揭書、536頁。

弓箭ノ發明ハ單ニ狩獵方面ニ於ケル生活資料獲得方法ニ、變革ヲ招來セシノミナラズ、ソハ漁撈ノ方面ニモ影響ヲ及ボシタ、『タイラー』ノ教ユル所ニヨレバ弓矢ヲ以テ魚類ヲ漁獲スルコトハ、多クノ野蠻種族ノ甚シク巧妙ヲ得テキル所デアル。[16]弓矢ヲ以

テスル協業ノ例證トシテハ、既ニ述ベテ置イタ北米印度人ノ例ノ中、⌞最初ノ段階⌝ガ正ニ此ノ時期ニ對應スル。

16) タイラー前掲著書、213頁。

最後ニ農耕方面ニ對スル概觀ハ、我々ガ野蠻人達ノ家族制度及ビ氏族制度ノ據ツテ立ツ經濟的基礎ヲ知ル上ニ於テ、看過ス可カラザルモノデアル。然シ新石器時代ニ於テハ、園藝耕作未ダ起ラズ、唯ダ單ニ廣濶ナ沖積地ノ畑地ニ於ケル⌞原始耕作⌝ニ過ギナカツタ。マタ其農具トシ謂ハバ、簡單ナル⌞棒鍬⌝(Grabstock,[18] Digging Stick)[19]或ハ其改善サレタル形態トシテ⌞鐘木鍬⌝(Hacke)及ビ⌞木鋤⌝ (Wooden-hack)[20] 等ガアルニ過ギナカツタ。

18) ビュツヘル前掲著書、9、46頁。

19,20) タイラー前掲、216頁。

サハ言ヘ斯カル農耕方面ハ、多クノ實例ノ示ス所ニヨレバ、主トシテ女性獨自ノ平和的ナ性質、而カモ其ノ强イ忍耐力ニヨツテ開柘サレタ特種ノ分野デアリ、且ツ其レガ母系家族ノ ⌞成立⌝及ビ存續ノ物的基礎ヲ支持スルニ與リシ寄與ハ、實ニ偉大ナモノガアツタ。詳細ハ後段ニ讓ラナケレバナラヌ。⌞食用ノ澱粉性植物ノ栽培⌝ 又ハ⌞原始的農耕⌝ト言フ事ハ、⌞タイラー⌝モ謂ヘル如ク、野蠻人ニ取ツテ決シテ困難ナ或ハ異常ナ發明デハ無カツタ。彼等ガ食用植物ヲ拾ヒ聚ムルニ巧妙ヲ得テキルト同樣ニ、若シモ木ノ實ヤ塊根ヲ適當ナ土地ニ置クナラバ、其レガ間モ無ク生長スルトイフ事ヲ、克ク經驗シ得ルニ足ルモノデ無ケレバ

ナラヌ。カクテ多クノ種族ガ自然ノ與フル物ノ拾聚ニノミ從ツテ、栽培トイフ事ヲ爲サザル所以ハ、其ノ無智ノ然ラシムル所ニハ非ズシテ、寧ロ彼等ノ漂泊生活、氣候ノ不良、單ナル怠惰トイフ事情ニ職由シテキル。

カルガ故ニ極メテ野蠻ナ土人サヘモ、彼等ガ年中一定ノ土地ニ定住シタ場合、氣候モ地味モ好ク、マタ重ニ植物ノ僅少ナル場合ニハ、恰カモ『待ツテ居タ』ト計リニ栽培ヲ初メルノデアル。例ヘバ「ブラジル」ノ印度人ノ如キハ彼等ノ『小屋』ノ周圍ノ地面ヲ耕ヤシテ、玉蜀黍、「カサヴァ」、「バナナ」ヤ棉ヲ栽培スル。[21]

21) タイラー前掲同書、214—215頁。

弓箭ノ使用ニヨツテ男性ハ狩獵漁撈ニ專ラ從事シ、女性ハ原始農耕及ビ家内用具ノ製作ニノミ從フコトトナルヤ、玆ニ兩性間ノ明確ナ分業ガ生ジタ。コノ分業ハ其ノ反面ニ於テ、共同關係ヲ必然的ニ伴フモノデアル。故ニ斯カル性的分業ハ、以下ニ述ブル家族制度及ビ氏族制度ニ於ケル『共產的共同家計制』(Kommunistische Gesammthaushaltung) ノ眞實ノ物的基礎ヲ形成シタ。

XVII. 法制萠芽時代　『道具』ヲ持ツテ爲ス生產ハ、其レ自體既ニ確固タル『秩序ノ表現』デアル。故ニ石器ハ其ノ出現ト同時ニ其ノ中核ニ生活秩序ノ胚種ヲ孕藏シテキタ、而シテ其レガ新石器時代ニ入リテ發芽シ、幼稚ナガラモ一ツノ法律秩序ニマデ生長シタモノト見ルベキデアラウ。卽チ舊石器ハ其レニ對應スル個人的生產ヲ誘致シ、從ツテ法律生活ニ於テモ、其ノ影響ヲ

受ケテ、恐ロシク個人主義的ニ傾イテキル。之レニ反シテ新石器ハ、前述ノ如ク生產ニ協業的ナ傾向ヲ齎ラシ、從ツテ之レニ對應スル共產主義的ナ法律生活ヲ齎ラシテキル。

マタ後ニ述ブル所ニヨツテ明トナル如ク主トシテ原始的農業生產ガ招來シタ部落ヘノ定住生活ハ、「母」ヲ以テ秩序ノ中心トシタ家族制度、更ラニ進ンデ母系ヲ一貫シタ血族關係ヲ基礎トスル氏族制度ヲ樹立スル物的基礎トナツタ。加之弓箭ノ使用以來「協業化」シ同時ニ「社會化」シタ野蠻人ノ經濟生活ハ、氏族制度ニ於ケル急速ノ發達ヲ助成シ、男性ノ政治的行動ヲ必要ナラシメ、彼等特有ノ團體的法律生活ヲ實現セシメ、從ツテ之レニ伴フ野蠻時代獨特ノ團體法理ガ現ハレタ。

新石器時代ニ入リテ親族法理ノ發達スルヤ、財產關係ニ於テハ新タニ「遺產相續」ナル法律制度ガ現ハレ、尙ホ氏族制度ノ發達ハ、其ノ占據ニ係ハル「土地ノ共同所有」トイフ全然新タナ法律現象ヲ見セテキル。而カモ其等土地共用、遺產相續、及ビ其他ノ關係ニ於ケル權利享有能力ハ、一ニ家族員又ハ氏族員デアルトイフ一定ノ身分關係ニ懸ツテキタ。卽チ總テノ權利地位ガ、「血緣」トイフ一事ニヨツテ決定サレタ時代ナノデアル。蓋シ新舊兩石器時代ニ於ケル總テノ財物ヲ合計シテ見タ所デ、尙ホ彼等ノ社會生活ニ於ケル秩序ヲ規定スルダケノ勢力ヲナスニハ足リナカツタカラデアル。

サレバ當代ノ有ラユル生活部面ニ亙タル支配原理ハ、「血ガ權

利デアル〓(The blood is right)トノ法理デアツタ事ガ知レヤウ。

以上之レヲ要スルニ野蠻時代ニ於ケル法律生活ノ研究ハ、略ボ我々ヲ次ノ五ツノ範圍ニ導ク。

I. 財產關係。

II. 個人ノ地位。

III. 兩性關係。

IV. 社會關係。

V. 對內的、對外的紛爭事件解決手段。

而カモ之等ノ法律關係ハ其ノ先行條件タル經濟生活ガ、新舊兩石器時代ニ於テ各々其ノ形相ヲ異ニセルガ如ク、其レニ應シテ各々甚ダシク其ノ趣ヲ異ニセルヲ以テ、互ニ區別シテ論ズ可キデアラウ。

但シ玆ニ一言斷リ置ク可キ事ハ、當時ノ法的規範ガ常ニ原始宗敎的規範ト合體セルコトデアル。故ニ我々ヲシテ宗敎ト法律トノ區別ニ絕エズ困難ヲ感ゼシメル。然シ我々ニアリテハ、サウシタ生活規律ノ法律的側面ノ觀察ノミガ、與ヘラレタル問題ナルヲ以テ、以後特ニ必要ノ存スル場合ノ外一々斷ハラヌコトトスル。

第二節 各 說

I. 財產關係

A. 舊石器時代ノ財產關係

道具ヲ生產スル動物トシテノ人間ガ，種々ノ生產用具ヲ製作シ初メタトイフ事ハ、單ニ經濟關係變動ノ因由トナリシノミナラズ、延イテハ野蠻人達ノ「所有權關係」ト「所有權的觀念」トノ誘因トナツタ。而カモ當代ニ於ケル所有權關係ハ、絕對的個人主義的デアツタ。而シテ斯カル關係ハ一度ビ社會制度トナルヤ、既ニ其ノ存在ノ必要無キ後代ニ至リテモ尙ホ可成リ强イ勢力ヲ有ツテキタ。

財產所有ニ關スル個人主義的傾向ノ生ズルニハ、種々ノ原因ガアツタ。先ヅ第一ニハ、前述ノ如ク彼等ノ生產ガ何レノ方面ニ於テモ、「各個獨自ニ」(selbständig) 行ハレ、從ツテ其ノ結果ニ對スル個人的支配ノ要求强カリシ事。第二ニハ、彼等ガ長イ歲月ノ間總テノ注意ヲ集中シ、有ラム限リノ力ヲ盡シテ製作シタ道具ニ對スル愛重ノ感情ノ極メテ銳敏デアル事。第三ニハ、其處ニ未ダ相互扶助的ナ觀念ナク，且ツ各個人ノ生存ニ對スル保護制度無ク、盛ニ「食人」「幼兒屠殺」及ビ「老弱委棄」[1]ノ行ハルル當時トシテハ、各人ノ唯一ノ賴ミハ各自ノ手ニセル道具以外ニ求ムルコト能ハズ、從ツテ各自ハ其ノ唯一ノ道具ヲ以テ、自家ノ生命ノ糧ヲ得、自己ノ運命ヲ開拓シナケレバナラナカツタ事。第四ニハ、道具ノ生產、製作サレタ道具、及ビ其ノ道具ヲ以テ產出シタ財物等ニ對スル個人的支配、之等ハ何レモ野蠻人ノ心意ニ「自他ノ意識」ヲ可成リ明確ニ自覺セシムルニ到ツタ事。第五ニハ、以上ノ如キ種々ナル個人的心意ノ宗敎的表現トシテ、「物忌

ミ｣ (taboo) ガ設定セラレ、其ノ反射作用トシテ益々個人主義化ノ傾向ヲ煽リシ事卽チ之レデアル。

1) ビュツヘル前揭著書、16—17頁。

之等ノ諸原因ハ極メテ固タク結付キ、其ノ影響ヲ遙カニ後代ニマデモ及ボシテヰル。我々ハ其ノ餘影ヲ通ジテ彼等ノ間ニ行ハレシ個人主義的ナ所有權關係ガ、如何ニ色彩ノ濃厚ナルモノデアツタカヲ窺ハウ。

例ヘバ既ニ早ヤ最低級ノ野蠻時代ニ立チ居ザル［ワンヤームウェーチ］族ノ家計ニ就テ、［バルトン］ノ報ズル所ニヨレバ、彼等ノ家族關係ハ總ジテ薄弱デアル。例バ夫ハ網ノ獲物ノ荷物ヲ持チ歸ルモ、其妻ニ少シモ與ヘヤウトハセヌ。彼女ノ方ニ於テモ、相續財產ヲ夫ニ與ヘナイ。而カモ夫ガ餓死スルノ外ナキニ到ル時デサヘサウナノデアル。彼ハ犢、山羊、羊、鳥類ヲ飼養シ、彼女ハ穀物ヤ果實ヲ管理スル。貰ハ各々自用ノ部分ヲ耕作スル。ガ然シ夫ガ此ノ貰草ヲ少シモ有タナクナツテモ、妻ハ其貯ノ中カラ夫ニ貸サウトハシナイ。此土地ニ於テハ、兩性ガ決シテ食事ヲ共ニスル事ナク、男兒ハ母ト食事ヲシナイト言ハレテヰル。(2)

2) ビュツヘル同上、35頁。

同樣ナ個人主義的ナ所有權關係ハ、既ニ完全ナ家計ヲ營ンデヰル北米印度人ノ間ニ於テモ亦之ヲ見出ス。彼等ハ土地若クハ地面ニ對スル個人的所有權ナルモノヲ知ラヌニモ拘ハラズ、彼等ノ家庭或ハ家族ニ於テハ、特有財產ヲ有セザル一人ノ印度人

ヲモ見出スコトハ出來ナイ。家族ノ各員ハ牛馬カラ犬猫小猫鶏鶏ニ至ルマデノ物ノ中、何レガ自己ニ屬スルモノナリヤヲ知リ、兩親ハ其ノ子供達ニ贈物ヲナシ、而シテ子供達ハマタ其ノ兩親ニ物ヲ贈ル。父ガ狩リニ行クタメニ、往々其ノ妻又ハ子ニ馬ノ貸與ヲ求メルコトサヘアル。(3)

3) 同上、32－33頁。

以上ノ事例ハ勿論我々ノ現ニ接シテ居ル時代ヨリモ遙カニ後代ニ置ケル現象デアツテ相續制度等モ既ニ見エテキル。然シ其等ヲ通ジテ、個人的ニ行ハレル生產關係ガ、如何ニ强大ナル力ヲ以テ其ノ當時ノ所有權關係ヲ決定シテキルカ、マタ財物ノ個人的支配ガ如何ニ自他意識ノ自覺ニ決定的ナ影響ヲ與ヘテキルカヲ判斷スルタメニハ、尙ホ例證トシテノ生命ハアラウ。次ニ述ブベキ事ハ、「物忌ミ」ガマタ彼等ノ所有權關係ニ及ボセル影響ニ就テデアル。

例バ「カリフォルニア」土人間デハ、死者ノアツタ場合死者ノ存命中使用セシ一切ノ道具ヲ死人ニ持テ行カセル。「ウヰントゥン」人ノ墓ノ中ニ伴葬サレテキル奇妙ナ財產ノ中ニハ、「ナイフ」、「フォーク」、酢德利、空ノ「ウヰスキー」壜、鑵詰ノ鑵、弓矢等ガアル。若シ死者ガ勤勉ナ家婦デアツタ場合ニハ、人々ハ尙ホ其上ニ數籠ノ槲實ヲ振リカケル。「テーウェルチュ」族（パタゴニア人）ノ墓場ノ傍デハ、死者ノ所有セシ馬犬其他ノ動物ガ殺サレ、死者ノ外套、裝飾品、「ボラス」（投擲彈）其他各種ノ道具ヲ堆高ク積上

ゲテ燒キ棄テル。伯西ノ「ボローロ」人ノ間デハ、一人ノ家族員ノ死亡ノタメニ家族ハ大ナル損失ヲ蒙ル。蓋シ死者ノ曾テ使用セシモノヲ、一切燒棄シ河ニ投ジ又ハ骨壺ニ納メルカラデアル。死者ハソレニヨッテ決シテ再ビ喚ビ起コサレテ歸ルコトハ無イト信ゼラレテキル。[4]

4) 同上、23—24頁。

南「ミンダナオ」ノ「バゴーア」人ノ間デハ、死者ニハ盛裝ヲ施シ、豫メ此ノ目的ノタメニ「殺シ置キタル奴隷」ヲ死者ト共ニ埋葬スル。墳墓ニハ死者ノ存命中ニ使用セシ庖厨具ニ米ヲ盛ッテ供ヘ、同樣ニ死者ノ「キレマ」ノ櫃マデ安置シテ置ク、死者ノ財物ハ其ノ家ニ置イテ何人モ觸レル事ガ許サレヌ。若シ其ノ家ニ更ラニハ其ノ墓所ニ侵入シタ場合ニハ、ソハ正ニ死刑(Todesstrafe)ニ當ルノデアル。死者ノ家ハ崩壞ニ委セテ置ク。[5]

5) 同上、24頁。

我ガ國ニ於テモ遠ホク此ノ時代ニ根差シタ斯カル所有權關係ハ、同樣ニ我々ノ祖先ノ抱持シテキタ「タブー」ノ信條ト合體シテ、近カク傳說時代ニマデモ殘シ傳ヘラレテキル。

例バ魏ノ正始八年(西紀、245)ニ倭ノ女王卑彌呼死シ、其家ハ徑百餘步ニ及ビ、「殉葬者」ハ「奴隷百餘人」デアッタト記サレ、マタ日本書記垂仁天皇紀ニハ、二十八年巳未冬十月、天皇ノ母弟倭彥命薨ヌ。……是ニ於テ「近習ノ者」ヲ集ヘテ悉ク生ケルナガラニシテ、陵ノ域ニ埋立ツ。日ヲ數ヘテ死ナズ晝夜泣チ吟

フ。遂ニ死ニテ爛チ臰リヌ。犬馬聚リ噉ム。天皇此ノ泣吟ツ聲ヲ聞キ心ニ悲傷マス。群卿ニ詔シテ曰ク。夫レ生ケルトキニ愛シミシヲ以テ亡ル者ニ殉ハ令ム。是甚ダ傷キワザナリ「古ノ風(のり)」ト雖モ良カラズバ何ゾ從ハム……カクテ三十二年遂ニ出雲ノ國ノ土部一百人ヲ喚シ上ゲ、自ラ土部等ヲ領ヒテ、埴ヲ取リテ「人馬」及ビ「種々ノ物」ノ形ヲ造作リテ天皇ニ獻ル。……仍リテ此ノ土師ヲ號ケテ「埴輪」ト謂フ。トアルガ如キハ固ヨリ時代ノ甚シキ懸隔アレドモ、當代ニ設定サレタ所有權關係ト「タブー」則トガ其等ノ保守的ナ惰力ヲ後代ニ及ボシタルモノヽ一ノ現ハレト見ル事ハデキヤウ。

更ラニマタ「オウストラリア」及ビ「アフリカ」ニ於テハ、之ニ關連シタ種々雜多ナ習慣ガアル。卽チ死者ノ貯ヘ置キシ食糧品ハ、葬儀ノ際會葬者ニヨツテ食ヒ盡サルヽカ、サモナクバ道具ハ破壞シ食糧ハ抛棄スル。多クノ「ニグロ」族デハ、死者ノ生前居住セシ小屋ニ遺骸ヲ葬リ、生存者ハ其ノ小屋カラ去リ、其ノ空屋ハ倒壞ニ委スルカ、サモナケレバ破壞スル。酋長ガ死亡スルト其ノタメニ、全村擧ツテ移住スル。而シテコハ「ムアタ・ヤムウォ」トカ「セゼムベ」ノ如キ比較的大ナル國ノ首都ニマデモ行ハレル。我日本古代ニ於テモ新天皇ハ、先皇ノ薨去毎ニ遷都シテキル記事ガ古事記ニ現ハレテキルガ、多ク之レニ類似シタ原因カラ來テキルモノデアラウ。マタ「ルンダ」國ニ於テモ王ノ舊都ハ燒棄テラレ、首都ハ新王毎ニ其ノ位置ヲ移ス。古代「ペルー」

人ノ間デハ、國王ノ更マル每ニ、世界ガ再ビ始マルトイフ見解ガ一般ニ行ハレテ、故王ノ宮殿ハ總テノ財寶ヲ其ノ中ニ藏メタママ永久ニ閉サレル。カクテ新王ハ祖宗ノ貯ヘシ財寶ヲ曾テ一度モ利用シタ事ガ無カッタ。[6]

6) 同上、24—25頁。

以上ノ諸例ヲ通觀シテ、我々ハ此ノ時代ニ屬スル何物ヲ溯及的ニ窺知シ得ベキカ、我々ハ先ヅ第一ニ所有權上ニ於ケル絕對的個人主義、第二ニハ其ノ結果トシテ「相續制度」ガ全然彼等ノ間ニ知ラレテ居ラヌ事、第三ニ何レノ場合ニモ「タブー」則ガ一貫シテ所有權思想ト共在セル事、第四ニハ後述スル如ク新石器時代ニ入リテヨリハ、一般ニ氏族制度出現シ、死者ノ財產ハ先ヅ原則的ニハ死者ノ所屬氏族ニ團體的ニ相續サレ、唯ダ實行上ノ便宜カラ故人ノ近親者間ニ個人的ニ分割相續サルルニ至リシ事ニ鑑ミテ、無相續制度ガ曾テコノ舊石器時代ニ生起セシ習俗ナリシモ、因襲ノ久シク遂ニ歷史時代ニマデ其ノ餘影ヲ或ハ其ノ全體ヲ殘シ傳ヘシモノナル事トヲ知リ得ルノデアル。

故ニ當代ニ於ケル財產關係ハ、(1)私有財產主義、(2)非相續主義ナル事ヲ認容サレナケレバナラヌ。

野蠻人ノ生活規律ハ、一面ヨリ之レヲ見レバ「物忌ミ」トイフ宗敎的規範デアルガ、之レヲ他面ヨリ見レバ、「忌禁法」(taboo)トトフ「法律的規範」デアル。故ニ「タブー」即チ「忌禁法」ニ對スル簡單ナ說明ハ、野蠻法理解ノタメ强チ徒爾ナ事デアルマイ。

更ラニマタ後ニ述ブル「性的忌禁法」(sexual taboo) ノ眞ノ解釋ハ、「タブー」ノ一般的了解アリテノミ達シ得ベキモノナル點ニ置イテ、我々ノ之レニ對スル總括的觀察ノ必要ヲ益々痛感セシメル。

總ジテ野蠻人ノ宗教トシテノ最モ原始的ナ現ハレハ、「不可知ナル力」ニ對スル驚嘆ニ起因スル。其ノ不可知力ノ忌ムベキモノトシテ想定サレルノガ、邪神又ハ鬼神 (evil demon or daemon) デアル。クサグサノ「罪穢」ヲ初メトシテ、人ノ「死」ニ至ルマデ何レモ皆、コノ邪神ノ然ラシムル所デアル、卽チ人ガ邪神ニ取リ憑カレタルタメニ種々ノ罪ヲ犯シ雜多ノ穢ヲ行ヒ、恐ルベキ死ニ會フノデアルト信ジラレテキタノデアル。

サレバ人ノ死スルアラバ、其ノ死者ニ憑イタ「イーヴル•デーモン」ハ、同樣ニ死者生前ノ所有物一切ニマデモ災ヲ及ボシテキルト考ヘラレテキル。而シテ之レハ何レノ民族ノ歷史ニモ、一度ハ勢ヲナシテ人ノ行爲ヲ律シテキタモノデアツタ。我々ノ上代ニモ忌禁法ノ行ハレシ事ハ、周知ノ事實デアル。

カクテ死者ノ所有物ヲ死者ト伴葬スルトイフ事ハ、明カニ野蠻人達ノ「物忌ミ」ニ歸スベキモノデアラウ。然シナガラ死者ニ邪神ガ取リ憑ケバ其ノ所有物ニモ等シク取リ憑クト信ゼラレシ所ニ尙ホ吟味スベキモノガ殘ル。卽チ死者ト其ノ所有物トガ、「物的一體」(sachliche Einheit) ヲナシ同一生命ヲ有ツ、故ニ死者ノ受ケシ邪神ノ祟リハ、當然ニ其ノ所有物ニモ及ブト信ゼラ

ルル程、其レホド彼等ノ所有物ニ對スル骨肉的感情ハ熾烈デアツタ。故ニ之レヲ原因關係ニ要約スレバ斯ウデアル。

彼等ノ個人主義的生産關係ハ、其ノ勞働ノ結果ニ對スル絕對的個人支配ノ觀念ヲ生ミ、延イテハ宗敎的觀念ノ上ニモ「人物一體」トイフ純朴ナ奇妙ナ信條ヲ發生セシムルニ至ツタモノデアル。如何ナル社會制度ト雖モ、其ノ據ツテ立ツ唯一ノ精神的基礎トシテ、其ノ出現當時ニ於ケル一般ノ「社會的要求」無シニ、突如忽焉トシテ設定サルルモノデハナイ。常ニ、或ル一定ノ社會的要求(個々人ノ意思ノ如何ニ拘ハラザル)ガ、其レニ對應シタ或ル一定ノ制度ヲ生ムニ至ルモノデアル。「タブー」ノ設定ト雖モ此ノ例外タル事ハ不可能デアル。卽チ當時ノ個人主義的經濟生活ノ必然的要求トシテ、斯カル「忌禁法」ハ設定サレタモノデアル。

B、　新石器時代ノ財產關係

新石器時代ニ入リテヨリ財物ハ、遽カニ、其ノ質ニ於テ向上シ其ノ量ニ於テ增加シ、爲メニ野蠻人ノ財ニ對シテ附スル經濟的價値觀念、財產相續ニ關スル思想、一層豐富ナル財貨獲得ノ追求、及ビ其ノ結果タル財產所有ニ對スル慾望等ハ、固ヨリ我々ノ其等ニ比スレバ殆ンド取ルニ足ラザルモノナランモ、舊石器時代ニ比較センカ實ニ異常ナル發達デアツタ。

而シテ弓箭ノ出現ノタメニ男性ハ、經常的ナ協業的ナ狩獵生活ニ專ラ從事シ、女性ハ確固タル定住生活ヲ打チ樹ツルタメ、

原始的農耕及ビ家庭用具ノ生産ニ專念スル事トナリ、玆ニ協業ト分業トガ相交 シテ經濟生活ノ共産主義的傾向ヲ齎ラス事トナッタ。

サレバ此ノ新傾向ニ適應シテ生ジタル當代ノ所有權關係ノ主ナルモノハ、土地及ビ共同長屋ノ共有制度及ビ死者ノ遺産相續制度デアッタ。然シ動産ノ私有制度ハ依然トシテ勢力ヲ持續シテキル。此ノ事ハ前掲諸例ニ就イテモ知リ得ルヲ以テ敢テ玆ニ反覆シナイデアラウ。

共有制度ニ關シテ一言センニ、總ジテ彼等ノ住マフ『共同長屋』(long tenement house)ハ其ノ住居者ノ共有デアッタ。コノ共同長屋ノ共有制度ハ、一般史的ニハ概シテ當代ニ行ハレシ家族形態タル『プナルア家族』(Punaruan family, Punaruafamilie)存立ノ物的基礎ニ對スル保證制度デアッタ。

其ノ一例ヲ擧ゲンカ、「ヴェネヅェラ」ノ海岸種族ノ間デハ、各家屋共百六十人ヲ集容シ得ル程ノ吊鐘型ノ共同家屋ヲ建テテ住ンデキルト發見者達ガ報ジテキル。而シテ當時彼等ハ上記ノ「プナルア」家族(詳細ハ後出)ヲ形成シ、夫達モ妻達モ同一ノ家屋寧ロ普通同一ノ部室ニ群居シテ生活シテキル。斯ノ如キ共同家屋ノ生活方法ガ、野蠻時代ニ極メテ一般的ニ行ハレタモノデアラウト言フ推測ハ、相當ノ妥當性ヲ以テ居ル。漸ヤク石器時代ヲ蟬脱シテ土器時代 (Pottery Age 土器時代ハ人種學上ノ時代ニ非ズシテ、筆者ガ任意ニ名付ケシモノ理由ハ後款ニ述ベル)ニ入

ツタ計リノ「イロクオイ」人ノ間デモ、五、十、乃至二十家屋位ヲ包含シ得ルホドノ共同家屋ヲ作ツテ、各家計ハ何レモ共產的ニ營マレテキル。[8] コハ當代ヨリ起リシ共同家計制ノ延長ト見ル可キデアラウ。

7、8) モルガン前掲著書、69、409頁。

土地ハ未ダ財產ノ客體トハ考ヘラレテ居ナカツタトハ謂ヘ、兎モ角種族ニヨツテ共有サレタ。例ヘバ「ニカラグア」ニ於ケル印度人ノ種族デハ、一ツノ村カラ他ノ村ニ移ルモノハ、耕地又ハ共同家屋ノ一部ニ對スル所有權ヲ他人ニ讓渡スル事ガ禁ゼラレテキル。[9] 蓋シ土地及ビ家屋ノ共有制ハ、氏族制度及ビ其ノ基礎ヲ成セル「プナルア」婚姻集團存立ノ絕對的必要條件ナノデアルカラ。

9) "History of America," by Herrera, iii, 298. quoted in Lewis Morgan's Ancient Society p. 76.

遺產相續制度ニ關シテハ幾多ノ例中カラ單ニ「セネカ・イロクオイ」人ノ行ヘル制度ノミヲ玆ニ引用シテ、例證ノ一部ノ責ヲ果シテ置カウ。「イロクオイ」人ノ氏族ニ於テハ、死者ノ財產ハ本則トシテ死者ノ所屬セシ氏族員ノ間ニ分配サル可キモノデアツタ。ガ然シ實際ニハ其氏族內ノ死者ノ近親者ニ分配サレタ。[10] 斯ノ如キ遺產ニ對スル氏族ノ團體的相續制度ノ出現ハ、古ルキ非相續制ノ消滅ヲ意味スルモノデアツタ、ガ然シ因襲ノ久シクシテ遽カニ改ム可クモ非ズ、「イロクオイ」人ノ間デモ尙ホ死者ノ貴

重品ノミハ遺骸ト共ニ伴葬サレテキル。然シ斯クノ如ク非相續時代ノ因襲ガ漸次其ノ影ヲ薄メ行ク所ニ、非相續制ガ舊石器時代ニ既ニ根ヲ下ロシ、且ツ其ノ時代ニノミ勢力アリタルモノナリトノ主張ノ理由ガ伏在シテキル。而シテ非相續制ヨリ相續制ヘノ過渡ニ於テ、先ヅ最初ニ現ハレシモノハ、上記ノ如キ氏族ノ團體的相續主義デアリ、次イデハ死者ノ屬セシ氏族内ニ於ケル死者ノ近親者ノミノ相續權設定セラレ、最後ニハ其ノ死者ノ兒女ノミノ相續制度ガ樹立サレテキル。然シ後ノ二ノ場合ハ何レモ當代以後ニ生マレタモノデアツタ。

10) モルガン前掲著書、74頁。

然シナガラ遺産ニ對スル氏族ノ團體的相續ノ制度ハ、遥カニ降リテ「ギリシア」、「ローマ」ノ氏族間ニマデモ、習慣法トシテ引キ續キ行ハレテキタ。ガ然シ「アテーネ」デハ「ソロン」以後其ハ無遺言死亡者ニ限リ適用セラルヽ事[11]トナツタ。

11) Morgan's Ancient Society, p. 74.

II. 個人ノ地位

A. 舊石器時代ノ個人ノ他位

カノ火力應用以來ニ於ケル野蠻人ノ盛ナル大移動ニ當ツテ根ヲ下ロシタ病者弱者老者ノ委棄、嬰兒屠殺、人肉屠食等ハ、舊石時代ニ入リテ或ル期間ノ定住生活行ハレ初メシ頃ニ於テモ、依然トシテ行ハレテキタ。而シテ其等殘虐ナル行動ニ野蠻人ヲ驅リシ原因ニハ種々ナモノガアツタラウ。然シ大體次ノ如キモ

ノデハ無カツタデアラウカ。

即チ第一ニ、老幼病弱ハ彼等ノ小止ミ無キ漂泊生活ノ足手纏トナリシタメニ、委棄サレ又ハ屠殺サレ、第二ニハ生活資料獲得方法ノ拙劣ナリシタメ、又ハ氣候ノ激變ノ結果トシテ土地ノ不毛ニ歸シタルタメニ食料不足ヲ來タシ、人肉屠食ハ恰カモ今日［ロシア］ニ行ハレツヽアルガ如キ狀態ヲ呈出シ、第三ニ近親者ノ性交ノ一般ニ行ハレシ結果羸弱ナル不良兒多カリシ事ハ、幼兒屠殺ノ原因ヲ增シ、第四ニハ何等ノ治療方法ヲ知ラザリシタメ病者ノ回復ハ期待シ得ラレズシテ委棄スルノ外ナキニ至リ、最後ニハ彼等ノ間ニ未ダ相互扶助的ノ念慮無カリシ事ハ、延イテ彼等ヲ殘虐ナル行動ニ平然タル態度ヲ以テ臨マシメタモノト推測サレル。

サレバ斯カル時代ニ於テ個人ノ生存ニ對スル何等カノ保證アリシモノト考フルハ到底不可能デアル。故ニ個人ハ全タク雜然タル群團ノ中ニ沒入シ、制度ニヨツテ支持サレタル人格者トシテノ地位ヲ確持スルコトハデキナカツタ。［生キル］コトガ自然デアレバ、［食フ］コトモ自然デアリ、從ツテ［食ヒツ食ハレツ］スル事モ彼等ニハ等シク自然デアツタヤウデアル。

B.　新石器時代ノ個人ノ地位

新石器時代ニ入リテモ上記ノ狀態ガ、改善サレタト速斷スル事ハデキヌ。蓋シ其ハ一種ノ風習ト化シ文明期ニ入リテモ尙ホ踏襲サレ、希臘羅馬人等ノ間ニマデモ引キ次ギ行ハレシモノデ

アルカラ。尚ホ我ガ上代ニモ行ハレタデアラウトノ推測ハ、古事記諾冉二神ノ記ニ、『水蛭子ヲ生ミ給ヒキ、コノ子ハ蘆船ニ入レテ流シ捨テツ、次ニ淡島ヲ生ミ給ヒキ。之モ子ノカズニハ入ラズ。』トアルニヨツテ、相當ノ理由ガ與ヘラレル。固ヨリ荒唐無稽ナル神話ナレドモ、尚ホ上代人ノ經驗ニ於ケル一部ノ表現ト見ル事ハデキヤウ。

併シナガラ個人ノ地位ハ、當代末期ニ到リテ漸ヤク發達ノ緒ニ就キシ氏族制度ノ中ニ、稍ヤ確實ナル根據ヲ得ルコトトナツタ。卽チソハ以前ノ雜然タル群團 (Horde) ニ於ケル片々ノ一介在物トシテノ狀態カラ、組織アル氏族制度ノ一員トシテノ地位ニ向上セシメラルルコトトナツタ。然シ未ダ團體ヨリ抽出サレタ一個人格者トシテノ地位アルニ非ズシテ、渾然タル氏族團體ノ一構成員タルニ過ギナカツタ。サレバ斯クノ如キ事情ノ下ニアリテハ個人ノ有ラユル關係ハ、唯ダ氏族トイフ團體ヲ通ジテノミ、反射的ニ主張サレ、保護サレ、問責サレ、處罰サレ、報復サルヽニ過ギナカツタ。

更ニ此ノ氏族制度樹立以來、其ノ各構成員間ニ於ケル『血ノ紐帶』ナル事實ト觀念トガ、絕ヘザル外敵侵入防護ノ必要ト結ビ付キテ、彼等ノ心意ニ相互扶助的ナ精神ヲ養フニ與リシ力ハ、實ニ測リ知ル可カラザルモノガアツタ。カクテ一面個人ノ地位ハ族員全體ヨリノ連帶的ナ支持ヲ得タト同時ニ、反面ニ於テハ其ノタメニ却テ益々氏族制度ノ全體ノ中ニ沒入シ行ク事トナツ

タ。

故ニ斯カル氏族制度ノ下ニ於テ一人ノ者ニ對シテ不法ヲ行フ事ハ、同時ニ彼レノ氏族全體ニ對シテ不法ヲ行フ事トナリ、且ツ一人ノ族員ヲ支持スル事ハ、直チニ彼レノ背後ニ居列ブ氏族員全體ニ與ミスル事トナル、ト謂フガ如キ彼等特有ノ團體法理ヲ生ズルニ至ツタノデアツタ。

III. 兩性關係(序言)　社會組織ノ『最初ノ形態』ハ、『性的組織』デアツタ。家族制度ハ此ノ性的結合ノ結果デアリ、氏族制度ハ性的組織ノ中ニ徐々トシテ培ハレ來タツタモノ、強テ謂ハンカ兩性結合ノ產果ニ外ナラナカツタ。而シテサウシタ二樣ノ胚種ヲ含ンダ性的組織ハ、爾後分レテ二種トナリ、其一種ハ氏族制度トナリ、更ラニ進ンデハ政治組織ニマデモ發展シタ。之レニ反シテ他ノ一種ハ固有ノ方向ヲ保チツヽ種々ノ變遷ヲ經テ、現代文明諸國ニ於ケル一夫一婦家族ニマデ開展シテキル。

實ニヤ『性的制度ハ、社會組織ノ最初ノ形態デアリ、同時ニ最後ノ形態デアル』トイフ斷定ハ、以下述ブル所ニヨツテ知ラルル如ク、彼ノ深遠ナル哲理ノ表現デ無イ代リニ、マタ信條的ナ獨斷論カラモ解放サレテキル。サレバ我々ガ玆ニ斯カル重要ナル社會組織ノ最初ノ形態ガ、何時、何處デ、如何ナル理由デ、如何ニシテ、如何ナル心的、物的條件ノ下ニ其出現ヲ告グルニ至ツタカヲ研究スルト言フコトハ、決シテ冗ナ事デハアルマイ。

我々ノ兩性關係ガ曾テ原始時代ニ於テ『無規律性交』ノ狀態ニ

アリシ事ハ、既述セシ概觀ニヨッテ略ボ明カニサレタ。而カモ其後彼等ハサウシタ性交狀態ノママ、『火ノ力』ノ助ケニヨッテ續續ト地球ノ全表面ニ向ッテ移動シ初メ、所謂『漂泊生活』(Wan-der-leben) ニ入ッテ行ッタ。我々ハ斯カル漂泊生活ノ中ニ、洲之頻ト嬰兒屠殺ヲ初メトシテ老幼病弱ノ委棄、人肉屠食等ノ行ハレシ無秩序ノ生活ノ中ニ、太シタ生活規律ヲ期待スル事ハ不可能デアル。從ッテサウシタ生活時期ニ秩序アル性的生活ノ或形態ヲ擬定スル事ハ、無暴ノ擧デアラネバナラヌ。

『性的秩序ノ出現』モ、『生活資料獲得方法ノ秩序化ノ始期』ニ求ムルト謂フ事ハ、最モ科學的ナ企圖デハアルマイカ。蓋シ既述ノ如ク我々ノ自然的本能的需要ノ第一次的表現ハ、食慾ニ關スルモノデアル。殊ニ生活資料獲得方法ノ如何ガ、直チニ自己ノ生存カ？死滅カ？ノ運命ヲ決定セシ野蠻時代ニ於テ、彼等野蠻人ノ心的秩序ノ表現ガ、性慾ニ關スルモノヨリモ、『食慾』ニ關スルモノニ先ヅ第一次ニナサレタデアラウトノ推定ハ、一般ニ認容サル可キモノデアラウ。

我々ハ既ニ『舊石器』ノ出現ニヨッテ、彼等ノ心的秩序ノ發生ヲ推知シ得タ。サレバ性的關係ノ秩序的形態ハ、其レ以前ニ初マッタトスル事モ出來ナケレバ、マタ其レ以後ニ發生セシモノトスル事モデキヌ。

而テ我々ハ彼ノ『ボローロ人ノ女性』ニ見出セシガ如キ、最初ノ農耕方法タル澱粉性植物ノ拾集、殊ニ其ノ『栽培』卽チ原始的

耕作ト定住生活トノ兩者ハ、二面一體ノ關係ニアルモノト思フ。蓋シ農耕ハ或ル一定ノ收穫期間ノ定著生活ヲ必然的ニ伴フモノダカラデアル。故ニ我々ハ女性側ニ於ケル農業的定住生活設定ノ要求ハ、彼女達ノ生理的天職――固ヨリ野蠻人ノ母性ニ於ケル産後回復期間ハ、通常二日乃至三日デアルト言ハレテキル、ガ然シ其ノ哺乳期ハ現代人ノソレト異ナル事ハ無イタメニ――カラ來ル自然的要求ト合シテ、蓋シ熾烈ナモノガアツタラウト推測サレル。

思フニ舊石器時代ニ於ケル穗先ヲ附ケタ槍ト棍棒トニヨル男性側ノ狩獵生活、並ビニ棒鍬ヤ鐘木鍬ニヨル女性側ノ原始的農耕生活ハ、今ヤ成リ出デントスル秩序的ナ家族生活ニ決定的ナ經濟的基礎ヲ與ヘ得タモノデアラウ。カクテ秩序アル「性的生活ノ最初ノ形態」即チ「人類最初ノ社會組織ノ形態」ハ、「舊石器ノ出現」ト大體時ヲ同ウセシモノト見ラレヤウ。

IV. 近婚制限　我々ノ最モ注意周到ナル考察ヲ要スルハ、近親間ノ相婚禁止ニ關スル「動機」如何トイフ最困難ナ問題デアル。此ノ點ニ關シテハ從來多クノ學者ノ頭腦ヲ惱マシタモノノ、未ダ定說ガ確定サレテキナイ。「ジグムント・フロイト」(Sigmund Freud) ニヨレバ、「トーテム族外婚ニハ「神聖ナ掟」トイフヤウナ趣ガアリ、――ソレガドウシテ存在スルニ至ツタカハ誰モ知ラナイノデアルガ――從ツテ其レハ一個ノ慣習デアル[(1)]。」ト謂ツテキルガ、然シサウシタ「神聖ナ趣ヲ具ヘタ慣習」ノ生ズルニ

モ、各々其ノ由ツテ來タル所ノ心理的動機ガアル。サレバ單ニ『慣習デアル』ト突キ放シタノミデハ未ダ充分トハ謂ヒ難イ。

1) "Totem and Taboo" by Sigmund Freud.『我等』第四卷第七號所揭譯文96—100頁。

『モルガン』ヤ『エンゲルス』等ノ主張スル所ニヨレバ、『性的階級組織及ビ其レニ次イデ起ル所ノヨリ高イ制度デアツテ血緣ヲ基トシタ氏族組織ハ、自然陶汰ノ力ニヨツテ無意識裡ニ起コサレタ大社會運動ノ結果ト見做サナケレバナラヌ(2)。』

2) Morgan's Ancient Society p. 48. and Engel's Ursprung der Familie, des Privateigenthum und des Staates, S. 21.

固ヨリ人類ヲシテ今日ノ發展アラシメタル其ノ效果カラ推セバ、自然陶汰ノ力ニヨツテ無意識裡ニ起コサレタ社會運動ト見ラレザルニ非ルモ、其ノ社會運動ガ如何ナル心的興奮ト、如何ナル形式內容ヲ具ヘタ運動ヲ以テ行ハレタカトイフ點ニ、後代ニ於ケル科學的ナ根據ヲ有ツタ禁制ト、野蠻人特有ノ心的興奮ヲ有ツテ行ハレタ禁制トノ相異ニ關連シタ幾多ノ興味アル問題ガ含マレ、雜多ナ難問題ガ祕メ込マレテキル。サレバ『自然陶汰トイフ覆』ヲ被セ置キタルマヽ、其ノ內的解剖ヲナサヌ以上眞ノ解決ハ得ラレヌ。

筆者ハ斯ウ信ジナイデハ居ラレナイ。卽チ先ヅ彼ノ近親性交ノ禁止ニ關スル社會運動ノ形式方面ヨリ言ハンカ、野蠻人ノ其レハ『性的忌禁法』(Sexual Taboo) ノ設定デアリ。文明人ノ其レ

ハ『婚姻法』ノ制定デアル。之ガ設定ニ當リテハ前者ガ概シテ本能的ニ行ハレタルニ反シテ、後者ハ有意識的ナ團體的立法事業ニヨツテ行ハレテキル。サハ謂ヘ現在ニ於ケル野蠻人未開人ノ性的制度ニ關スル許多ノ報告ニヨツテ知ラルヽ如ク、彼等ノ設定シタル『性的忌禁法』及ビ『動物祖神教』(Totemism)ニ伴フ『族外婚制』(Exogamy)ノ中ニハ、我々ガ單ナル著書報告ノ文書ヲ通ジタルノミニテハ、容易ニ理解シ得ベカラザル程ノ込ミ入ツタ智的勞作ノ仕組ガアル。(3)

3) 此ノ點ニ就イテ、モルガンノ『古代社會』ニヨツテ報ゼラレテキル『オーストラリア』土人ノ性的階級制度、及ビ其ノ性的組織ノ上ニ氏族制度カ發達シ行カンタメニ弄シタ策ナドニ就イテ見ルナラバ、野蠻人ガ何等ノ智的努力ナクシテ、カカル運動ニ從ツタモノデモナケレバ、マタ從フ事モデキナカツタトイフ事ガ了解サレル。同書、47—60頁。

第二ニハ其內容ヨリ觀ナケレバナラヌ。總ジテ性的制度ノ進化ハ、性的結合ヲ禁止サレタル當事者間ノ親等數ニ正比例スル。

從ツテ上代ニ溯ル程其親等係數ハ減少シ、最後ノ零點ニ無規律性交ノ狀態ガ見出サレル。サレバ野蠻人ノ禁制內容ガ、比較的該親等ノ係數少ナキニ反シテ、後代ノ其レハ係數ノ比較的多キヲ見ル。然シ之ニ就イテ注意スベキ事ハ、totemism ニ基ヅク族外婚ガ、常ニ必ズ近婚禁止デアルト速斷シテハナラヌ事デアル。蓋シ母系主義ヲ中心トシタ族外婚デハ、父方トノ近親婚ハ無制限デアリ、父系主義ヲ中心トシタ族外婚デハ母方トノ近親婚ハ自由ナルヲ以テデアル。

第三ノ心理的方面ハ本問題ノ中心ヲ占メル。野蠻人ニシテモマタ文明人ニシテモ、該禁制ニヨツテ達成セントスル究局ノ目的——意識セルト否トニ拘ハラズ——ハ、良種ノ保持デアリ且ツ其ノ向上デアル。而シテ其ノ良種ノ保持ト向上トニ驅ル人類ニ(否ナ有ラユル生物ニ)共通ナル動因ハ、『種族保存ノ本能』デアル。然シ其レガ野蠻人ニアリテハ、概シテ原始宗教的意識ニ現ハレ、文明人ニアリテハ法律的意識ニ具現スル。

總テ自然淘汰ノ法則ナルモノハ、時ノ古今、人種ノ甲乙、文化ノ高低、土地ノ東西等ヲ問ハズ、更ラニハ人ガ之レヲ發見スルト否トニ拘ハラズ、嚴乎一貫シテ生物界ニ行ハルル事ハ一點ノ疑モ無キ事實デアル。即チ或ル兩性間ノ性交ニヨツテ得タル兒女ノ心性體質ハ、其等兩親ノ親等ガ近接シアレバアル程、劣惡デアリ羸弱デアル。ガ之レニ反シテ懸隔シアレバアルホド、其レダケ優良ト强健ノ度ヲ增スト謂フ事ハ、現代人ノ經驗ニモ亦野蠻人ノ經驗ニモ等シク入リ來タルベキ性質ノモノデアツタ。

唯ダサウシタ同一ノ自然法則ガ兩者ノ『智的發達ノ相違』ノタメニ、各々等シカラザル長サノ期間ニ於テ、各々別異ナル意味ニ、各々獨特ノ意識狀態ノ下ニ、各々異ナツタ範圍ノ經驗内ニ採リ入レラレタニ過ギヌ。

サレバ野蠻人モ數萬年トイフ永イ時ノ經過ヲ辿リツツ、先ヅ最初ニハ、兎角『母子兩性間ニ生ミ成サレタ兒女』ガ、其レ以外ノ兩性間ニ生マレタル兒女ニ比ベテ、更ラニハ他種族ヨリ掠奪

シ來タッタ婦女ノ生メル子ニ比ベテ、常ニ惡質弱性ナル事ノ無意識裡ノ認識ヲ得、且ツ其處ニ働ク『種族保存ノ本能的衝動』ハ、野蠻人ヲ驅ツテ異常ナル『近婚畏怖』(Dread of Incest) ニ趣カセル。而カモ其ノ畏怖タルヤ或ル不可見ノ神秘力ニ對スルモノデアツテ、例ヘテ謂ハンカ、『斯カル惡シキ子ノ生マルルモ、亦其ノ因タル母ト子トノ相ヒ婚ハクルニ至ルモ、皆コレ邪神 (evil daemon) ノシワザ、邪神ノ崇タリデアリ、邪神ノ取リ憑キタルニ由ルナラン』トノ原始宗教的認識ニ基ヅクモノデアツタ。カクテ母子間ノ相姦ハ彼等ノ宗教的信念ニ於テ、邪神ノ所爲ニ歸セシメラレ、且ツ甚シキ畏怖ノ對象トナリ、遂ニハ之レヲ罪ト觀ジテ忌避 (avoid) スルニ至ル。

而シテ斯カル近婚畏怖ハ當初ニ於テハ個々ノ場合ニ於ケル個々人ノ心意ニ多ク起リ來ツタモノデアリ、從ツテ『近婚忌避』(Avoidance of Incest) モ、初メハ個々人ニヨル個々ノ場合ノ母子相婚ノ禁忌トナツテ現レタノデアルガ、漸次サウシタ畏怖及ビ忌避ハ、人間心意ノ論理的必然性ニ從ツテ、一般人ノ畏怖世人共通ノ忌避トナツテ、一種ノ社會則トシテノ性的忌禁法 (Sexual taboo) ニマデ集積サレタモノト見ルベキデアラウ。サテコソ我々ノ上代ニ見ユルガ如ク大祓ノ祝詞モテ、サウシタ『上下通婚』ノ如キ『國津罪』ヲ犯スニ至ラシムル『邪神』ヲ追ヒ祓ヒ、且ツ其レニ類シタ種々ノ罪穢ヲ清メ潔グトイフ底ノ事ガ、眞面目ニ信ゼラルニ至ルノデアル。

カクテ人類最初ノ家族形態タル兄弟姉妹群ノ性的結合ヲ以テ成ル所謂『血緣家族』(Blutsverwandtschaftsfamilie) ガ生ジタノデアツタ。

近婚畏怖及ビ近婚忌避ガ、此ノ段階ニ達スレバ最早ヤ其ノ後ノ段階ヘノ進步ハ、期シテ待ツ可キデアル。其「タブー」ハ益々勢力ヲ得來タツテ、肉身ノ兄弟姉妹間ノ相婚禁止トナリ、玆ニ「モルガン」ノ所謂『プナルア家族』(Punaruan family) ノ成立ヲ見ルニ至ル。次イデ其ノ「プナルア」婚姻集團ヲ基底トシ、且ツ母系主義ヲ一貫シタ『氏族制度』(Gentile Organisation) ノ樹立トナリ、漸次團體內ノ近婚禁止ノ範圍ヲ擴メ、從前ノ單ナル性的忌禁法ハ多クノ氏族ニヨツテ、ヨリ一層嚴格ナ氏族法又ハ『トーテム式族外婚制』ニ變改サレ、カクテ「プナルア」家族ニ次グ形態トシテ對偶家族ガ出現スル。

V. 血緣ノ集團婚　兩性關係ハ、敍上ノ如キ事情ニヨツテ尊屬卑屬間ノ通婚ヲ禁止サレ、直系傍系ヲ含ム兄弟姉妹間ノ通婚ニヨツテ成ル集團婚トナツタ。

斯クノ如キ婚姻關係ガ、「モルガン」ノ所謂『血緣家族』(Consanguine family) ヲ齎ラシタ。

故ニ此ノ制度ニ於テハ、婚姻群ハ各世代每ニ分カタレル。卽チ一家內ニ於テ祖父母ノ列ニアル兄弟姉妹同志、父母ノ列ニアル兄弟姉妹相互、其ノ子ノ列ニアル兄弟姉妹交互ニ、孫ノ群ニ於ケル兄弟姉妹相共ニ、何レモ共同配偶者ノ集團ヲ作ル。而シテ

此ノ婚姻形態ニアリテハ、兄弟ト姉妹、尙ホ第一第二更ラニ遠イ親等ノ從兄弟ト從姉妹等ハ、總テ相互ニ兄弟姉妹デアッテ、從ッテマタ何レモ皆互ニ夫婦ナノデアル。故ニ此ノ段階ニ於テハ兄弟姉妹トイフ關係ガ、直チニ性交ノ行ハルル關係ヲ包含スル。[1]

1) Engels' Der Ursprung der Familie, S. 19.

夫群間ニ於ケル兄弟關係、婦群間ニ於ケル姉妹關係及ビ兩群ノ結合シテ一ノ婚姻階級ヲ組織スルトイフ事、之等三種ハ本制度成立ノ基礎ヲナシ、同時ニ野蠻時代ノ社會組織ノ單位ヲナシタノデアル。

而テ此ノ家族ニ於ケル親等ノ區別ハ、各世代每ニ一ノ婚姻群トイフ範疇ニ分類シ得ル所カラ之ヲ「分類的親等」(Classificatory grade) ト名ク可キデアラウ。之ニ對シテ我々ノ親等類ノ如ク敍述シ得ベキ親等ヲ「敍述的親等」(Descriptive grade) ト言フ。[2]

2) Morgan's Ancient Society, p. 403.

血緣家族ノ曾テ行ハレシ事ノ明カナ證跡ヲ現ニ有スル民族トシテハ、布哇人其ノ他ノ「ポリネシア」人、「メラネシア」人ノ中デハ「フィジー」諸島ノ島民、新西蘭ノ「マーロリ」人、「ミクロネシア」ノ「サモア」、「クサイ」及ビ「キングスミル」諸島ノ島民、大平洋中ノ住民ノ多イ島々ノ島民等ガ其ノ主ナルモノデアラウ。[3]

3) Ib. p. 410–417.

本制度ヲ遠キ過去ニ於テ經驗セシ事ノ證跡ヲ、其ノ民族史上

ノ記述ニ示シテキル民族國トシテハ、先ヅ我ガ「日本」ヲ初トシテ隣國支那等ハ其ノ顯著ナルモノデアラウ。

支那ニ於ケル其レハ、所謂「古代支那ノ九親等」(Nine Grade of Relations of the Chinese) ガ「マレイ式親等」[4]ト同一根柢ヲ有スル事ニヨツテ示サレテ[5]キル。詳細ハ後段ニ讓ル。

4) "Malayan System"ハ布哇式親等制度ノ別名デアル。

5) Ib. p. 425.

我ガ日本ニ於ケル其レハ後ニ述ブル親等稱呼ト多クノ實例トニヨツテ示サレテキル。ガ然シ我々ハ我國ノ親等稱呼ヲ究ムル前ニ、豫メ現野蠻民族間ニ使用サレテキル親等稱呼ニ通ジテ置クト謂フ事ハ、我々ノ理解ヲ容易ナラシムルタメ强チ迂遠ナ方法デハアルマイ。蓋シ此ノ親等稱呼ヲ知ル事ハ本制度發見ノ鍵鑰ナノデアルカラ。

サレバ我々ハ其ノ秘鍵ヲ得ルタメ、「モルガン」ノ導キニ從ツテ布哇マデ趣カウ。

布哇デハ祖父母ニハ「カプナ」(Kapună) 兩親ニハ「マークア」(Mäkua)、子ニハ「カイキー」(Kaikee)、孫ニハ「ムープナ」(Moopună) ノ稱呼ガアル。性ノ區別ノタメニ、男性ニハ「カーナ」(Käna)、女性ニハ「ワーヒーナ」(Wäheena) トイフ語ヲ接尾スル。特別ノ必要アル場合ノ外、總ジテ祖父母以上ニハ、「カプナ」ヲ、孫以下ニハ「ムープナ」ヲ以テ呼バレル。

兄弟姉妹ノ親級關係ノ中ニ長幼二種ノ稱呼ガアツテ各々別異

ニ用ヒラレテヰル。卽チ

『兄』ニ對シテ、男性ノ方カラハ『カイクアアーナ』(Kaikuaäna)トイヒ、「女性」ノ方カラハ『カイクナーナ』[A](Kaikunäna)トイフ。

『弟』ニ對シテ、男性ノ方カラハ『カイカイナ』(Kaikaina)トイヒ、「女性」ノ方カラハ『カイクナーナ』[A](Kaikunäna)トイフ。

『姉』ニ對シテ、「男性」ノ方カラハ『カイクワーヒーナ』[B](Kaikuwäheena)トイヒ、女性ノ方カラハ『カイクアアーナ』(Kaikuaäna)トイフ。

『妹』ニ對シテ、「男性」ノ方カラハ『カイクワーヒーナ』[B](Kaikuwäheena)トイヒ、女性ノ方カラハ『カイカイナ』(Kaikaina)トイフ[6]。

カクテ弟ガ兄ヲ呼ブニモ妹ガ姉ヲ呼ブニモ共ニ『カイクアアーナ』トイフ語ヲ用ヒ、兄ガ弟ヲ呼ブニモ姉ガ妹ヲ呼ブニモ『カイカイナ』トイフ共通ノ語ヲ用ヒテヰル。從ッテ兩性共通デアル。尙ホ「男性」ハ『姉』ニモ『妹』ニモ同一ノ語(B)ヲ用ヒ、同樣ニ「女性」ハ『兄』ニモ『弟』ニモ共通ノ語(A)ヲ用フル。カクテ男性ノ方ヨリスレバ、其ノ兄弟ハ長幼ニヨッテ區別スルモ、其ノ姉妹ニ對シテハ然ウデナイ。反對ニ女性ノ方ヨリセバ、其ノ姉妹ハ長幼ニ區分スレドモ、其ノ兄弟ハ區分シテ居ラヌ。カウシタ親等稱呼ハ「ポリネシア」人ノ間ニモ同一ノ特徵ヲ示シテヰル[7]。

6、7) モルガン前揭著書、413—414頁。

我々ノ上代人間デハ『母』ニ對シテ子ハ『愛母』(イロハ)トイ

ヒ、「父」ニ對シテハ「カゾ」トイツタ。

「兒女」ニ對シテ兩親ハ、性的區別ナク「子」ト總稱シタ。

「尊屬」ニ對シテ卑屬ハ、父母以上ノ總テノ尊屬ヲ性ノ區別ナク、單ニ「オヤ」マタハ「ミオヤ」トイヒ、「卑屬」ニ對シテ尊屬ハ、直近ノ卑屬ヲ兩性ノ區別ナク「コ」ト呼ビ、其レ以下ノ卑屬ヲ總稱シテ「マ」(例ヘバ「スメミマ」ノ「マ」、「アメミマ」ノ「マ」ノ如キ）ト呼ンダ。更ラニ後裔ニ對スル稱呼トシテ「スエ」トイフ語ガ用ヒラレテヰル。

然シ本制度ノ中心問題ハ、次ニ述ブル兄弟姉妹間ノ稱呼ニ集中シテヰル。

「兄」ニ對シテ「女性」ノ方カラハ、「汝兄」（ナセ）又ハ單ニ「兄」(セ)ト呼ビ、男性ノ方カラハ概シテ「愛兄」トイツテヰル。

「弟」ニ對シテ「女性」ノ方カラハ、「汝兄」又ハ單ニ「兄」ト言ヒ、男性ノ方カラハ「愛弟」(イロト)ト言ツタ。

「姉」ニ對シテ「男性」ノ方カラハ、「汝妹」(ナニモ)或ハ「吾妹」(ワギモ)トイヒ、女性ノ方カラハ「汝姉」(ナネ)又ハ「吾姉」（アネ)トイツタ。

「妹」ニ對シテ「男性」ノ方カラハ、「汝妹」又ハ「吾妹」ト呼ビ、女性ノ方カラハ「愛妹」ト呼ンダ。

而カモ上代ノ慣ヒトシテ、「妻」ハ其ノ「夫」ニ對シテ「汝兄」(ナセ）又ハ「兄」（セ)ト呼ビ、「夫」ハ其ノ「妻」ニ對シテ「汝妹」又ハ「吾妹」ト呼ンダ。——コノ稱呼ハ和歌ヲ通ジテ遙カ奈良朝以後

ニマデモ傳ヘラレ、殊ニ我々ニマデモ傳ハツテヰル。例ヘバ『妹背』(イモセ)トハ「夫婦」ノ稱デモアリ、且ツ「兄妹」又ハ「姉弟」ノ稱デモアルガ如キ、或ハ『妹背ノ契』トイハバ、『夫婦ノ契』ト解セラレテ居ルガ如キ卽チ之レデアル。

以上ニヨツテ知ラルル如ク『兄』(セ)又ハ『汝兄』(ナセ)ト謂フ稱呼ハ、「女性」ガ其ノ『兄』ヲ呼ブニモ、其ノ『弟』ヲ呼ブニモ、更ラニハマタ其ノ『夫』ヲ呼ブニモ、共通ニ用ヒラレテキル。サレバ之レヲ等式ニ表ハサンカ『汝兄(ナセ)又ハ兄(セ)＝兄(アニ)＝弟＝夫』トイフ關係トナル。次ニ『汝妹』又ハ『吾妹』トイフ稱呼ハ、「男性」ガ『姉』ヲ呼ブニモ、『妹』ヲ呼ブニモ更ニハマタ『妻』ヲ呼ブニモ用ヒラレテキル。同樣ニ等式モテ表ハサバ、『汝妹又ハ吾妹＝姉＝妹＝妻』トイフ關係ヲ示ス。

故ニ兄ト弟ト夫トハ同一範疇ニ取リ入ラレ、同樣ニ姉ト妹ト妻トハ同一「カテゴリー」ニ組ミ入レラレ、以テ前者ハ夫群ヲ形チ作リ、後者ハ妻群ヲ形成スル。カクテ之等兩者ハ性的ニハ血緣的集團婚ヲナシ、制度ノ上カラハ血緣家族ヲ組成スル。

而シテ兄弟群ノ『夫性』ト姉妹群ノ『妻性』トハ、我々ノ祖先達ガ曾テ血緣的集團婚ヲナセシ當時ニ於ケル、社會組織ノ構成單位ヲナシテキタノデアル。之レガ漸次婚姻關係ノ變遷、從ツテ家族ノ變革ト共ニ、實際上ノ制度ガ其ノ存在ヲ失ツタ後モ、唯ダ稱呼ノミ固有ノ制度ヲ傳ヘ來タリシモノト見ルベキデアラウ。

此ノ點ニ就イテノ詳細ナル證明ハ、節ヲ改メテ述ベル事トシ

テ、玆ニハ單ニ典型的ナ一例ノミヲ引用シ、我々ノ科學的良心ノ一部ノ滿足ヲ得ヤウ。例ヘバ日本書紀ノ仁賢朝六年秋九月ノ記ニ「玉作部ノ鯽魚女、(フナメ)前ノ夫、韓白水郎曝(カラアマノハタケ)ニ共(メア)ヒテ哭女(ナクメ)ヲ生ム。更タ後ノ夫、住道(スミチ)ノ山寸(ヤマキ)ニ共ヒテ麁寸(アラキ)ヲ生ム。則チ哭女ト麁寸ト異父兄弟ノ故ニ哭女ノ女、飽田女(アキタメ) 麁寸ヲ呼ビテ、『母(オモ)ニモ兄(セ)』ト曰フ。哭女山寸ニ嫁ギテ飽田女ヲ生ミ。山寸マタ鯽魚女ヲ淫シテ麁寸ヲ生ム。則チ飽田女ト麁寸ト異母兄弟ノ故ニ、飽田女夫麁寸ヲ呼ブニ『吾ニモ兄』ト曰フ。古者、兄弟長幼ヲ問ハズ、女ハ男ヲ以テ兄(セ)トイヒ、男ハ女ヲ以テ妹(イモ)ト稱フ。故ニ『母ニモ兄、吾ニモ兄』ト言ヘルノミ」トアルガ如キ引證トシテノ價値ハ充分デアラウ。因ミニ言フ。『母ニモ兄』トハ『母トハ兄妹關係ニ立ツテ居ル』トノ事デアリ、『吾ニモ兄』トハ『妾トハ夫婦關係ニ立チ待ル』トノ事デアル。卽チ兄妹關係＝夫婦關係トイフ時代ノ名殘リヲ親族稱呼ノ中ニ謂ヒ傳ヘテキルノデアル。

而カモ斯カル稱呼ハ、單ナル一片ノ字義トシテ輕視シ去ルベキモノデハ無イ。其レニハ曾テ存在セシ各親等間及ビ兩性間ニ於ケル極メテ重大ナ且ツ確定シタ家族制度ノ意味ガ含マレテキルノデアル。卽チ其ハ稱呼上ニ現ハレタ過去ノ『制度』デアツテ、當時ノ家族制度ニ於ケル諸種ノ權利義務ノ各部分ヲ表ハス象徵デアツタ。而シテ其ノ各部分ガ一箇統體ニ總合サレテ其處ニ、

『血緣家族』(Consanguine family, Blutsverwandtschaftsfamilie) ナル形態ガ成立シタノデアッタ。サレバ之等ノ各稱呼ヲ通ジテ、我々ノ祖先ガ曾テ營ミシ斯クノ如キ『集團的血緣家族』ヲ認識スル事ハ、可能事中ノ可能事デアラネバナラヌ。

尙ホ我々ハ前揭大祓ノ祝詞ニ現ハレタル禁制、卽チ我々ノ祖先達ノ間ニ行ハレシ性的忌禁法中ノ罪種ニ照シ考フレバ、ヨリ一層明確ナル理解ヲ得ルデアラウ。

其ノ罪種ハ總テヾ五種類デアル。——(I) 己母犯罪、(II) 己子犯罪、(III) 母與子犯罪、(IV) 子與母犯罪、(V) 畜犯罪卽チ之レニ盡キル[8]。之レニヨッテ知ラルヽ如ク其ノ禁制範圍ハ、母子間及ビ人畜間ニノミ止マリテ、兄弟姉妹以下ノ血族者間ノ通婚ハ全然放任サレテキルヤウデアル。從ッテ大祓ノ祝詞ガ『血緣家族』當時ノ婚姻法規ナル事ガ推知サレヨウ。

8) 久保季玆氏著祝詞略解、第四卷11頁以下參照。

カノ伊邪那岐命ト伊邪那美命達ガ同母兄妹ノ間柄デ夫婦遘合(ミトノマグハヒ)セシガ如キ、速秋津日子（兄）ト速秋津比賣(同母妹)及ビ大山津見神(兄)ト野椎神（ヌヅチノカミ——同母妹）等ノ夫婦遘合ノ如キ物語ノ我ガ古典ニ見ユルハ、我々ノ祖先達ガ血緣家族ヲ營ミシ時期ノ餘リ遠カラザル過去ニ屬スルコトヲ示ス。

之レヲ要スルニ此ノ血緣家族ハ、先行ノ無規律性交ニ對スル一大改革トナッタ。而シテソハ人類發達ノ殆ンド最底段階ニ見

出サレルモノデアツテ、多クハ其處ヲ出發點トシテ歷史モ起リ立ツタモノデアラウ。此ノ血緣家族制ハ大體舊石器時代當初ヨリ行ハレ初メシモノトスベキデアラウ。

VI. プナルア家族制　野蠻人ノ社會的心意ニ芽グンダ近婚畏怖及ビ近婚忌避ノ觀念ハ、漸次生長シツヽ其ノ範圍ヲ擴メ、遂ニ肉身ノ兄弟姉妹間ノ近婚ヲ畏怖シ且ツ忌避スルトイフ事ガ、可成リ早ヤクカラ個々ノ場合々々ニ行ハレテキタニ相違ナイ。斯クテ遂ニハ『プナルア』家族制度ノ出現ヲ見ルニ至ル。

然ラバ『プナルア家族』(Punaruan family, Punaruafamilie) トハ如何。コハ直系傍系ヲ含ム或數ノ姉妹群ト、他ノ同樣ナ兄弟群トノ團體婚デアル。其ノ典型的ナ例トシテ布哇ノ風習ヲ引合ニ出サウ。其レニヨレバ、肉身ノ若シクハ遠緣ノ姉妹(卽チ第一、第二又ハ其以上ノ親等ノ從姉妹) 群ハ、彼女達ノ共同ノ夫ノ共同ノ妻デアツタ。但シ彼女達ノ肉身ノ兄弟ハ其ノ中カラ除外サレテキル。之等共同ノ夫達ノ間ニ於テハ最早ヤ互ニ兄弟ト呼ビ交ハサナイデ、マタ其ノ必要モナカツタカラデアル、唯ダ『プナルア』(intimate companion, intimer Genosse, Associé) ト呼ビ合ツタ。同樣ニ肉身若シクハ遠緣ノ兄弟達ノ一群ハ、彼等ノ肉身ノ姉妹ヲ除外シタ一共同妻群ト團體婚ヲナシ、且ツ之等ノ妻達相互モ『プナルア』ト呼ビ交ハシタノデアル。(1)

1) Engels' Ursprung der Familie, S. 22.

斯カル『プナルア』婚姻集團ノ通常ノ構成人員ハ、種々ノ民族

ニ於ケル其レヲ比較スルニ、「オーストラリア」ノ性的階級制度ヲ除ケバ、總ジテ十人乃至十二人ヲ以テ成ツテキル。

「プナルア」家族ハ遙カニ降ツテ歷史時代ニ入リテモ、歐羅巴亞細亞及ビ亞弗利加等ニ行ハレテ居タシ、マタ「ポリネシア」デハ現ニ尙ホ行ハレテキル。ソハ新石器時代ニ處リシ人類ノ有ラユル種族間ニ普及セシノミナラズ、次ノ土器時代更ラニハ後出ノ青銅器時代(Bronze Age)ニ進出セシ種族ノ間ニモ、尙ホ引キ續キ行ハレテキタ。例ヘバ青銅器時代ニ到達シテキタ「ブリトン」人ノ如キ又ハ我ガ大和民族ノ如キ種族ノ間ニモ行ハレタ。我ガ國ニ青銅器時代ノ存在セシヤ否ヤハ未ダ確定セラレ居ザルモ、筆者ノ信ズル所デハ、我々ノ祖先達ガ曾テ青銅器ヲ生活上ノ「主用具」トナセシ時代アル事ハ、主トシテ九州ノ遺跡ニ於テ發見セラレシ首要金屬器ニヨツテ、略ボ推測サレ得ルト思フ。而シテ我ガ國ニ於ケル家族制度發達ノ順序ヨリ考フルニ、「プナルア」家族制度時代ヲ此ノ青銅器時代ニ擬定スルノガ、最モ妥當デアルヤウニ思惟サレル(詳細後出)。

時トイフ偉大ナ生成力ノ遷リ進ムニ伴レテ「プナルア」家族ハ其ノ母胎タル血緣家族ノ外殼ヲ蹴破ツテ、歷史ノ表面ニ頭角ヲ現ハシタ。サハ謂ヘ其レガ母胎內デ孵化サレル過程ハ、極メテ緩徐タルモノデアツタ。時ノ生成力ハ偉大デハアルガ鈍長デアル。血緣家族カラ「プナルア」家族ヘノ轉化モ無規律性交カラ血緣家族ヘノ開展ト同樣、先ヅ個々ノ場合ニ於ケル近婚關係カラ肉身

ノ兄弟姉妹ヲ、漸々ト除外スル事ニヨツテ招來サレタ。

血緣家族ニアリテハ、其ノ婚姻集團ノ中ニ直系傍系ノ兄弟姉妹ヲ含ンデキタ。故ニ此ノ血緣家族ヲ「プナルア」家族ニ變改スルニハ、其ノ婚姻關係カラ肉身ノ兄弟姉妹ヲ除外シ、傍系ノ兄弟姉妹ノミヲ保留スル事ガ必要デアツタ。ガ然シ一親級ヲ除外シテ、他ノ親級ヲ保留スルトイフ事ハ、極メテ困難ナ作業デアツタ。加之其ハ野蠻時代ニ於ケル各家族員ノ『特權』ヲ剝奪スルモノデアツタタメニ、家族員モ亦決シテ之ヲ容易ニ拋棄シヤウトシナカツタ。

先ヅ假リニ其レガ個々ノ場合ニ初メラレ、其ノ好結果ニ對スル緩徐ナ認識ガアツタトシテモ、尚ホ永イ時ヲ通ジテノ經驗ガ必要デアツタ。其處デ當初ハ部分的ニ、然ル後漸層的ニ一般化シ、カクテ途ニ野蠻時代ニアツテ、サウシタ運動ヲ起コシタ野蠻種族ノ間ニ普及スル事トナツタ。斯カル新制度ノ出現ハ、既ニ述ベシガ如キ性ニ關スル「タブー」ノ、ヨリ一層嚴格化シ來タツタ結果ニ外ナラヌ。而シテ我々ハ其處ニ法律意識ノ可成リ强イ開展ノ初マツテ居ル事ヲ感得スル。

「プナルア」習俗ノ餘影ハ、世界中ノ其處此處ニ殘存シテキタ。歐羅巴、亞細亞及ビ亞米利加種族ノ如キ例外的ナ場合ニ於テハ靑銅器時代マデ及ンデキル。「シーザー」ノ見タ古代「ブリトン」人モ依然此ノ婚姻習俗ヲ有ツテキタ。卽チ『十人マタハ十二人ノ夫達ガ彼等ノ妻婦ヲ共同ニ所有シ、而シテ殊ニ兄弟ト兄弟マ

タハ親ト子トガ然ウナノデアル。」ト彼ハ言ツテヰル。(2)

2) Morgan's Ancient Society, p. 438–439.

手近ナ例トシテハ、前記布哇人、「オーストラリア」人、「ポリネシア」人ノ間デハ現ニ行ハレテヰル。南米土人ノ間ニ於テハ、全體ニ就テハ不明デアルガ、例ヘバ「ヴェツェラ」ノ海岸種族ニ就イテハ、最初其處ヘ航海シタ者カラ次ノ樣ニ報道サレテヰル。――「彼等ハ法律モ知ラネバマタ不完全ナ規則トイフモノモ知ラヌ。而シテ彼等ノ欲スルダケノ多クノ妻ヲ取ル。マタ彼女等モ欲シイダケ多クノ夫ヲ持ツ。而カモ兩當事者間ニ於ケル何等ノ非行モ考量セラルヽ事ナクシテ、隨意ニ相互ガ離別シ合フノデアル。彼等ノ間ニアリテハ「嫉妬」ト言フヤウナモノハ、藥ニシタクモ無イ、總テガ彼等ノ最モ氣ニ召シタ者ト同棲スル。カクテ相互ノ間何等ノ爭モ起ラヌ。……家ハ總テノ人ニ對シテ共用的ニ建テラレ、其處デ彼等ハ共同ニ生活スル。而カモ其ノ家屋タルヤ百六十人モ收容シ得ル程ノ廣大ナモノデアツテ、棕櫚ノ葉デ蔽フテハアルガ、頑丈ニ「ベル」ノ形ニ作ラレテヰル。」(3)

3) Ib., p. 440.

北亞米利加土人ノ間デハ一般ニ家族ハ「プナルア」式カラ「對偶婚」(Paarungsfamilie, Syndyasmian family) ノ形式ニ移ツテヰル。サハ言ヘ其ハ「プナルア」式婚姻集團ヲ明示スル古代婚姻制度ノ殘影ヲ以テ取リ卷カレテヰル。其ノ最モ剴切ナ一習俗ヲ玆ニ引證シヤウ。而カモ其ハ現ニ北米印度人ノ少ナクトモ、

四十有餘ノ種族ノ間ニ認メラレテキルモノデアル。其處デハ或ル一人ノ男性ガ、或ル家ノ最年長ノ姉娘ト結婚スレバ、彼ハ『習慣』ニヨッテ、彼女ノ妹達ガ婚期ニ達シタ時ニハ其ノ總テヲ自己ノ妻婦トスルノ權利ヲ得ル事トナル。所ガ其レハ、單ナル一個人ノ手デ數家族ヲ維持セネバナラヌ、トイフ困難ノアル爲メニ、一夫多妻トイフ事ガ男性ノ特權トシテ、一般ニ承認セラレテキルニモ拘ハラズ、其ノ權利ノ實際ニ行使セラルヽ事ハ極メテ稀デアル。

玆ニ於テ我々ハ知ル、斯カル習俗ハ彼等ノ祖先達ノ間ニ行ハレシ「プナルア」習俗ノ餘影デアルトイフ事ヲ。疑モ無ク肉身ノ妹達ガ、彼女達ノ姉妹關係ニ基ヅイテ婚姻關係ニ入リ込ムニ當ッテ、彼女達ノ間ニ時ノ隔リハアル。ガ兎ニモ角ニモ一人ノ夫ハ總テノ姉妹ノ夫デアル。併シナガラ「プナルア」婚姻本來ノ關係カラ謂ヘバ、一人ノ夫デハ無クテ、他ノ男性ニ對シテハ彼ト共ニ集團的ノ共同ノ夫デアッタ。「プナルア」家族ガ倒壞シテ後ハ、『最年長ノ姉娘ノ夫』ニ、若シモ彼ガ要求スルナラバ、彼女ノ總テノ妹娘ノ夫タルベキ特權ガ、殘シ與ヘラレタノデアル。以上ノ如キハ古代ノ「プナルア」習俗ノ純粹ナル殘影ト見做サルベキ正當ノ理由ヲ有ッテキル。(4)

4) Ib., p. 436-441.

サテ今ヤ我々ハ「モルガン」ノ助ケニヨッテ、『現ニ』北米印度人ノ間ニ於テハ「プナルア」家族制ガ倒壞シテハキルモノヽ其ノ

殘影トシテ、或ル家ノ最年長ノ姉娘ト婚ヲ結ビシ夫ハ、若シモ彼ガ要求スルナラバ、其ノ妻ノ總テノ妹達ノ夫トナルベキ特權ガ殘シ與ヘラレテキルトイフ習俗ノ存在セル事ヨリシテ、北米印度人達ガ曾テ「プナルア」家族制度ヲ有シ居タリシ事實ヲ慥カメ得タノデアルガ、若シ之レト同樣ナ『立證方法』ガ、我ガ國ノ家族制度ノ研究ニ於テモ等シク許サルヽナラバ、筆者ハ我ガ古典カラ數多ノサウシタ實例ヲ摘出シ、我國ニモ曾テハ依然「プナルア」式家族制度ノ存在セシコト——同時ニ其レハ後ニ述ブル理由ニヨリ氏族制存在ノ立證ニモナル——ヲ、明確ニ立證スルコトガデキル。

尙ホ之レニ加ヘテ我ガ古典ニ記錄サレシ貴族階級ノ間ニ行ハレタル「プナルア」式家族制ノ餘影ガ、我々ニ齎ラスーノ有益ナ法制史上ノ文獻的價値ハ、彼等貴族輩ノミガ「モルガン」ノ注意セシ如ク『單ナル一個人ノ手デ、數多ノ家族ヲ維持セネバナラヌ』トイフ困難ニ堪ヘ得ルノ經濟狀態ニアリシヲ以テ、前述ノ特權行使ガ殆ンド貴族(富者)ノ間ニ限ラレテキタトシテモ、マタ從ッテ此ノ方面ノ研究對象ヲ貴族階級ニノミ限局スルトシテモ、決シテ一般的證據力ニ強弱ヲ來タサヌトイフ事デアル。

例ヘバ垂仁天皇ガ美知能宇斯王(キミチノウスノミコ)ノ女等、比婆須比賣命(長姉)及ビ其ノ妹、弟比賣命、歌凝比賣命、圓野比賣命竝ニ四柱ヲ喚サゲタル如キ。或ハ允恭天皇ガ其ノ皇后及ビ其ノ弟姫ト娶ヒシガ如キ。或ハ大碓命ガ三野國造ノ祖、神大根

王ノ女、兄比賣弟比賣ニ孃子ト娶ヒシガ如キ。或ハ應神天皇ガ品陀眞若王（ホムダノマワカノミコ）ノ女三柱ノ王女、高木ノ入日賣命、中日比賣命、弟比賣命ト娶ヒシガ如キ。或ハ履仲天皇ガ鯽魚磯別王ノ女、太姫郎姫、高鶴郎姫ヲ喚シテ后宮ニ納レシガ如キ。或ハ反正天皇ガ丸邇（ワニ）ノ許基登ノ臣ノ女、都怒ノ郎女、弟比賣ト娶ヒシガ如キ。以上ハ何レモ傳說時代ニ屬シテキル。記錄時代ニ入リテハ極メテ僅々タルモノデアル。其ノ中ノ二例ヲ示サウ。

例ヘバ欽明天皇ガ、宣化天皇（欽明天皇ノ兄弟）ノ女（ミコ）、石比賣命ニ娶ヒ、マタ其ノ妹小石比賣命ニメアヒシガ如キ。或ハ天武天皇ガ太田皇女ヲ納レテ妃トナシ其ノ妹ヲ皇后ト爲セシガ如キ卽チ之レデアル。

以上ハ我ガ古典上ノ單ナル記錄ニ現ハサレタル「プナルア」婚姻集團ノ餘影（女性側ニノミ持續セシメラレテキル）ニ關スル僅少ノ實例ニ過ギヌ。併シナガラ其等ノ背後ヲ窺ヘバ、往時ノ社會ニ勢力ヲ振ルヒシ「プナルア」家族及ビ其ノ成立要素タル「プナルア」婚姻群ノアリシ一證據トモナラウ。

尙ホ「プナルア」家族制度ノ本質ハ、同母兄弟姉妹間ノ通婚禁止トイフ一點ニ存スルノデアル。故ニ若シ或ル家族制度ニシテ、サウシタ禁制サヘナシ居ラバ、其ハ無條件的ニ「プナルア」式家族制タル事ヲ得ルノデアツテ、其ノ家族內ニ於ケル各婚姻群ノ各員ガ相互ニ「プナルア」（親シイ友ヨ）ト呼ビ合フカ否カハ、敢

テ問フノ要ナキ事柄デアル。是ヲ以テ我々ハ我ガ日本ニ於イテ「プナルア」式家族制ノ曾テ行ハレシ事實ニ對シ最早ヤ一點ノ疑ヲ容ルヽ餘地無キ事ヲ知ル。蓋シ我ガ古典ニハ『同母兄弟姉妹間ノ通婚禁止』ニ關スル『教訓的物語』ガ、明確ニ其ノ事實ヲ立證シテキルカラデアル。

例ヘバ允恭朝ニ於ケル輕皇子ト其ノ同母妹(イロモ)輕大娘皇女トノ慘マシイ骨肉戀愛ノ哀詩ノ如キハ、實ニ血緣家族カラ「プナルア」家族ヘノ完全ナル轉化ノ終フルニ至ルマデノ過渡期ノ社會ニ於テ、必然的ニ起ル悲劇トシテ最モ我々ノ心ヲイタマシメルモノデアル。之レガ詳細ノ追及ハ後章ニ讓リ、玆ニハ性的教訓トシテ我々ノ上代社會ニ語リ傳ヘラレシ此ノ哀詩ノ唯ダノ一部ヲ引證シテ置カウ。輕皇子ノ歌ト言ヒ傳ヘラルヽモノ。

足曳ノ山田ヲ作リ、山高ミ、下樋ニ走シセ、下泣キニ我ガ泣ク妻、片泣キニ、我ガ泣ク妻、今夜コソ休スク肌フレ。篠葉ニ、打ツヤ霰ノ慥々(タシダシ)ニ、寢テム後ハ『人議(ハ)カユトモ』、愛ハシト、サ寢シサ寢テバ、刈菰ノ亂レバ亂レ、サ寢シサ寢テバ。

斯クノ始キハ單ナル個人ノ經驗ニハ非ズシテ、前述ノ如キ過渡期ニ於ケル社會一般ガ嘗メシ苦ガイ經驗ナノデアツタ、ソレガ單ナル輕皇子トイフ個人ノ事件トシテ說話化サレタニ過ギヌ。

最後ニ一言スベキ事ハ我ガ國ニ於ケル「プナルア」式家族制度ノ發達ガ、極メテ緩漫デアツテ恰カモ布哇ニ於テ起リシ如ク、

後代ニ至ルモ同母兄弟姉妹、甚シキハ母子共ニ［プナルア］婚姻集團ニ捲キ込マレシ事——前揭玉作部ノ鯽魚女ノ場合等ハ其ノ一殘影ト見ルベキデアラウカ——往々ナリシノミナラズ、マタ其ノ禁止範圍ニ於ケル爾後ノ發展ガ頗ル遲々トシテ捗ラズ、中古ニ降ルモ尙ホ其ノ原範圍ニ止マツテヰタ。故ニ［彼ノ中古唐制ニ模倣シテ親族法ヲ制定スルニ及ビテモ、同性婚又ハ親族婚ニ對スル唐律ノ規定ヲ採用セズ、我ガ［戶令］ニ就テ見ルモ絕エテ之レニ關スル規定ヲ設ケザルノミナラズ、戶婚律ノ逸文ニモ亦、之レヲ見出ス事ガデキヌ(5)。］

5) 三浦博士法制史ノ研究 522頁。

サレバ姨甥間、伯叔父姪間ノ通婚ハ勿論、異母兄弟姉妹間ノ婚通、甚シキハ繼母子間ノ上下婚サヘモ可成リ後代マデ怪マレナカツタ。唯ダ進步シタ方面トシテハ、後ニ到ツテ詳述スル如ク青銅器時代末期カラ鐵器時代ヘカケテノ期間ニ於ケル、對偶婚ヘノ變革——獨占的共棲關係ノ伴ハザル［一對ノ男女間ノ婚姻形態］ヘノ轉化——ガアツタニ過ギナカツタ。然シソレハ禁止範圍ノ開展デハナクテ、婚姻集團ニ於ケル男性側ノミノ［單數化］ニ過ギナカツタ。

既ニ述ベシ如ク性的制度ノ進步ハ、性的結合ヲ禁止セラレタル當事者間ノ親等數ニ正比例スルモノデアル。サレバ我ガ國古代ノ如ク親等少ナキ兩性間ノ結合ノ公認セラレシ事ハ、畢竟スルニ性的制度ガ一般ノ發達ニ遲レシ事實ヲ示スモノデアリ、該

制度ノヨリ野蠻ナル形態ヲ踏襲シタリシ事ヲ示スニ過ギヌモノデアツテ、決シテ多クノ論者ノ主張スルガ如ク「我ガ國特有ノ事情」ニ因由スルモノデハ無イ。唯ダ其ノ特有ノ事情ト謂フ意味ガ、「多クノ現野蠻民族トシテノ孤島ノ住民、例ヘバ「ポリネシアン」、「メラネシアン」、「ミクロネシアン」、「アウストレーリアン」、發見以前ノ兩米土人ノ如キヲシテ、一般文化ノ刺戟ナキ爲メニ尙ホ性的關係ノ極メテ野蠻ナ形態ニ停リ居ルノ餘儀ナキニ到ラシメタル「地理的條件」ニ關スルモノナラバ、固ヨリ何等ノ異議アル可キ筈ハ無イ。

カクテ漸ヤク漢文化トノ接觸繁キヲ加フルニ至リ、我ガ國ノ一般文化ノ向上セシニモ拘ハラズ、上記ノ如キ孤立的ナ地理上ノ關係ヨリシテ續キタル因襲ノ久シキ爲メニ、大化ノ改新ニ當リテモ遽カニ其ノ野蠻形態ノ兩性關係ヲ改ムルニ由シ無カツタノデアル。我々ハ孤立的ナ特種論者ガサウシタ「地理的」特種事情以外ノ如何ナル「事情」ヲ「特種」ニ「由シアリゲニ」示サウトモ、其レニヨツテ「一般史的必然性」ガ弱メラレヤウトハ思ハナイ。宜ナルカナ、爾後ニ於ケル經濟的變革ノタメ遂ニ今日見ルガ如キ一夫一婦制ニマデ進化セル事ヤ。

VII. **母系主義**　有リト有ラユル形態ノ集團婚家族ニアリテハ、「其ノ母ノ何人ナリヤ」ハ明カデアツテモ、「子ノ父ガ何人ナリヤ、」トイフ事ハ多ク不明デアル。從テ「集團婚」(Gruppenehe) ノ存在セル限リ「出自」(Abstammung) ハ唯ダ母方ニ就テノ

ミ說明シ得ベク、マタ「女系」(weibliche Linie) ノミガ認メラレ得ルノデアル。(1)

1) Engels' Ursprung der Familie, S. 34-35.

サレバ母系主義ト集團婚制度トハ、恰カモ「ペン」ノ兩「ニツブ」ノヤウナ關係ニ立ツモノデアツテ、兩者ノ抱合ニヨツテ初メテ兩性結合ノ古典的形式ハ描キ出サレ得タノデアル。我國上代ニ於ケル母系制度ノ存否ニ就イテ、我々ハ今更細密ナ立證方法ヲ選バネバナラヌダラウカ。ソレハ證明スベク餘リニ平凡ナ事柄ニ屬シテキル。然シソレデハ一般ノ科學的要求ノ滿足ヲ得難イカモ知レヌ、トイフ懸念カラ極メテ簡單ニ述ベルコトヽシヤウ。

此ノ點ニ關シテ前掲大祓ノ祝詞程直截ナ而カモ有力ナ證據ヲ與ヘ得ルモノハアルマイ。卽チ其ノ禁制ノ全圓周ガ「母」ヲ其ノ中心點トシテ畫カレテ居ル事ニヨツテ知ラレヤウ。人畜間ノ「變態的遂情」マデ禁止シタ大祓ガ、若シ當時父系ノ明カナリシナラムニハ、敢テ父方ヲ除外スルガ如キ不明ハシナカツタデアラウ。

上代ノ親級稱呼ニ於テモ「同母兄弟姉妹」ニ對スル稱呼ノ接頭語「イロ」ト、「母」ニ對スル稱呼ノ接頭語「イロ」トガ共通デアルニ反シテ、「父」ニ對シテハ單ニ「カゾ」トノミ言ヘルハ、固ヨリ「イロ」ハ「親愛ナル」トノ意デハアルガ、母系主義ノ稱呼上ニ表ハレタ一部面ト見ル事モ出來ヤウ。

更ラニ大祓ノ性的忌禁法ノ適用ト見得ベキ我ガ古典ニ現レタル近婚禁止ガ、常ニ「同母兄弟姉妹」間ニ限ラレアルハ、マタ之

レ母系主義ノ尙ホ存續セシ事ヲ示スモノデアル。其ノ他倭ノ女王卑彌呼、其ノ宗女壹與ノ王位繼承ニ關スル魏志倭人傳ノ記事、古事記日本書記ニ散見セラルヽ母性ノ活躍ニ關スル記事等ハ、依然トシテ母系主義ノ殘存セル事ヲ物語ルモノデアル。

一般史的ニモ母系主義ガ父系主義ニ先立チシ事ハ、既ニ確定シタ說トナツテキル。我ガ國ニ於ケル母系主義モ要スル所其ノ一般史的原理ノ一適用ニ過ギズ、之ヲ心理的ニ謂ハンカ人間心意ノ論理的必然性ノ一表現ニ外ナラズ、經濟史的ニ觀ンカ「財產ノ無勢力時代」特有ノ現象デアリ、法制史的ニ見ンカ財產法理ノ未ダ形成セラレズシテ、「血緣法理」萬能時代ニ於ケル「家族」ノ同時ニ「社會」ノ支配原理デアツタ。

VIII. 集團婚ノ復活　人間ノ「記憶」ハ過去ニ於テ得タ經驗ヲ間渴的ニ善惡美醜眞虛ノ區別無ク復活セシメ、往々ニシテ自己ヨリ低キ文化段階ヘ押シ戾スコトガアル。集團婚ノ復現モカウシタモノノ一例デアロウカ。

「カリフォルニア」半島ノ土人(新石器時代ニ處ル)ニ就イテ「バンクロフト」ハ告ゲル。彼等土人達ノ所デ行ハルル某トイフ程ノ名ノ付ク祭禮ノ時ニハ、「無差別ナ性的交情」ヲ爲ス目的デ多クノ種族ガ蝟集シ來タルノデアルガ、此ハ明カニ曾テ一氏族ノ女性ガ、他種族ノ總テノ男性ヲ彼女達ノ共同ノ夫トナシ、マタ其ノ反對ノ場合ヲ爲シ居タリシ時代ノ朧ゲナ記憶ヲ斯ウシタ祭禮ニ當ツテ保持セントスル公ヤケナ氏族ナノデアル。此ノ習俗ハ「アウ

ストレーリア」ノ土人ノ間デモ亦一般ニ行ハレテヰル。或ル二三ノ種族ノ間デハ、長老、酋長、及ビ覡祝等ガ、妻婦共同制ヲ自分達ノ爲メニ奪ヒ上ゲテ、殆ンドノ女性ヲ獨占シテヰル。ガ然シ其ノ代ハリ彼等ハ、某トイフ名ノ付ク程ノ祭禮ヤ人民ノ大集會ニ際シテハ、古ルイ共同制ノ復活シ來タツテ、彼等ノ妻婦ガ若イ男達ト樂シミ合フニ任カセテ置ク。「ウェスターマーク」ノ著「人類ノ婚姻史」(28—29頁)デハ古キ自由ナ性的交情ノ再現シ來タル週期的ナ農耕神ノ祭禮ニ關スル全體ノ實例ヲ、印度ノ「ホー」人、「サンタール」人、「パンジャー」人、及ビ「コナール」人竝ニ二三ノ「アフリカ」民族カラ齎ラシテヰル。「バビロニア」ノ女性ハ、毎年一度「ミリッタ」ノ神殿ニ於テ、其ノ身ヲ提供シナケレバナラナカツタ。其ノ他前「アジア」諸國民ハ彼等ノ娘達ヲ數年ノ間「アナイティス」ノ神殿ニ送リ、其處デ彼女達ハ自分デ約束シタ愛人ト、彼等ノ結婚ノ許サルルマデ、自由ナ戀愛ヲ樂シミ合フノデアツタ。同樣ナ「宗教的ナ裝」ヲシタ習俗ハ、地中海ト「ガンジス」河トノ間ニ處ル殆ンド總テノ亞細亞民族ニ遍在スル。(1)

1) Engels' Ursprung der Familie, S. 34–35.

我ガ國ノ古代ニ於テモサウシタ古ルキ集團婚ノ間渇的復現ガ、カノ「歌垣」或ハ「嬥歌」ヲ通ジテ行ハレテヰル。而シテ歌垣ハ往古傳說時代ヨリ奈良朝時代ニマデモ間渇的ニ、都鄙ノ分カチナク廣汎ニ亙ツテ行ハレタ。例ヘバ古事記ニモ平群ノ臣ノ祖志毘臣ト袁祁命トノ戀爭ガ歌垣ノ會デ行ハレタ事ガ見ヘ。降ツテ奈

良朝ノ文獻デハ萬葉集卷ノ九ニ『鷲ノ住ム筑波ノ山ノ裳羽服津(モハキヅ——地名ナラム)ノ、其ノ津ノ上ニ誘ヒテ、乙女壯男ノ往キ集ヒ、カガフ嬥歌(カガヒ)ニ他妻(ヒトヅマ)ニ吾モ交ラム、吾ガ妻ニ他(ヒト)モ言問ヘ此ノ山ヲ領(ウシハ)ク神ノ從來(ハジメ)ヨリ、禁(イサ)メヌ事(ワザ)ゾ今日ノミハ、目苦シモナ見ソ、事モ咎ムナ。』反歌——『男神ニ雲立チ登リ時雨降リ沾レ通ホルトモ吾レカヘラメヤ。』ト詠タヒ現ハサレテキル。

從來歌垣ニ關シテノ一般歷史家達ノ見解ハ頗ル不滿足ナモノデアッタ。ガ然シ其ハ我國ニ於テ遠ホク新石器時代ニ根ヲ下ロシ、鐵器時代直前マデ行ハレ來タッタ集團婚ノ間渴的復現ト解シテノミ眞ノ理解ガ得ラレルノデアル。彼ノ盆踊ガ歌垣ノ變態ナリヤ否ヤハ俄カニ斷定シ得ザルモ、矢張リ其レト略ボ動機ヲ同ウセル事ハ、容易ニ推測サレル。

(未　完)